教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 建築学科　　資格： 教授　　氏名： 岡﨑　甚幸

研究分野	研究内容のキーワード
世界遺産や歴史都市における自然、建築、文化に関する研究	建築設計,建築計画学
学位	**最終学歴**
工学博士,修士（建築都市デザイン）	ワシントン大学大学院 建築都市デザインコース 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.JABEE認定（4年 / 技術者教育プログラム）	2013年4月26日～現在	建築学科の学士課程プログラム 2011年度から、さかのぼって認定。2018年度には認定の継続が決定。
2.JABEE認定（6年一貫 / 技術者教育プログラム）	2013年4月26日～現在	建築学科と建築学専攻の学士修士課程プログラム 2011年度から、さかのぼって認定。2018年度には認定の継続が決定。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻 主催/ 東京センター 共催　講演会シリーズ「シルクロー ド の文化と建築」　趣旨説明・進行	2015年2月27日～現在	本講演会シリーズでは、シルクロードを通して行われてきた、わが国と地中海を結ぶはるかにダイナミックで長い歴史の異文化交流とその文化遺産保護活動について考える。年間2回 実施している。
2.武庫川女子大学　建築学科・建築学専攻 主催　講演会シリーズ「わが国の近代建築の保存と再生」趣旨説明・進行	2011年6月4日～現在	国登録有形文化財指定を受けた甲子園会館（旧甲子園ホテル）を大学の校舎として、また建築学科の教材として活用していることから、本講演会シーズでは、豊かな都市環境の在り方について考える。年間2回実施している。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.管理建築士	2010年2月15日～現在	武庫川女子大学　建築・都市デザインスタジオ
2.一級建築士	1966年2月20日	免許取得
2 特許等		
1.膜発音器及び残響調節装置	1999年8月9日	特許願、出願番号 H11-225371
2.ドーム状構造物及び排気ダクト	1997年5月14日	特許願、整理番号 TK_9705 国際特許分類 E04B 1/100
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.UNESCO/Japanese Funds-in-Trust Project for Support for Silk Roads World Heritage Sites in Central Asia (Phase II): On-site Training Workshop in Uzbekistan (September 2017) における 招聘講師	2017年9月11日～9月21日	ウズベキスタンのタシュケント、サマルカンド、ヒヴァにおいて、現地の建築・考古学関連の専門家を対象として、歴史的建造物および景観の保存・修景・活用に関する技術養成のためのワークショップを実施した。（岡﨑甚幸、柳沢和彦、杉浦徳利、天畠秀秋）
2.文化遺産国際協力コンソーシアム　会員	2014年3月～現在	
3.トルコ・神戸 地震対策国際交流調査団　ヴァン県現地視察	2011年12月	
4.京都市　京都会館の建物価値継承に係る検討委員会　委員長	2011年～2012年	
5.和歌山県秋葉山公園県民水泳場整備基本計画・基本設計設計者選定等委員会　委員長	2009年	
6.日本建築学会　環境技術と建築・街並み・地域のあり方特別調査委員会　委員	2008年3月～2009年3月	第４小委員会「わが国の伝統的住環境技術と文化の形成小委員会」　委員長
7.京都市　高度集積地区まちづくり推進プログラム（仮称）検討委員会　座長	2007年7月～現在	
8.西宮市立浜脇小学校校舎等改築工事設計委託業務指名型プロポーザル　審査委員	2007年	
9.兵庫県阪神こどもの館整備基本計画検討委員会	2007年	
10.兵庫県「警察署のあり方を考える懇談会」　委員	2006年	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
11.財団法人　関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団　選考委員	2005年～2010年	
12.日本建築学会学会賞（技術部門）審査委員	2004年～2006年	
13.兵庫県警察本部　雑踏警備アドバイザー	2003年10月～2013年9月	
14.日本建築学会　京都の都市景観の創生特別研究委員会　委員	2003年6月～2006年3月	
15.京都創生懇談会　委員	2003年4月～現在	
16.日本建築学会京都の都市景観特別調査委員会　委員長	2003年4月～2006年3月	
17.京都市「京都創生100人委員会世話人」	2003年～現在	
18.日本建築学会21世紀計画系建築教育特別研究委員会　副委員長	2002年4月～2005年3月	
19.UIA世界建築家協会　Sports and Leisure部門　日本代表	2001年～現在	
20.化学戦略会議生活分科会　委員	2000年2月～2003年8月	
4 その他		
1.慰霊碑デザインコンペティション　（千鳥ヶ淵戦没者墓苑内）　佳作	2009年11月	独立行政法人平和祈念事業特別基金主催
2.建築雑誌 増刊 作品選集 2009 （日本建築学会） 掲載	2009年	「武庫川女子大学建築スタジオ」
3.第50回BCS賞(建築業協会賞)	2009年	「武庫川女子大学建築スタジオ」
4.第17回BELCA賞 ロングライフ部門 受賞	2008年	「武庫川女子大学甲子園会館 改修」
5.平成19年度 プレストレストコンクリート技術協会賞	2007年	「武庫川女子大学建築スタジオ」
6.平成14年度ファッションタウンシンボル大賞	2003年3月	福井県鯖江市主催 「真宗寺客殿及び庫裏」
7.第7回公共建築賞 優秀賞	2000年6月28日	公共建築協会主催 「サンドーム福井」
8.1999年度 第31回 中部建築賞	1999年12月7日	中部建築賞協議会主催 「鯖江市健康スポーツ交流館」
9.1998年度 第30回 中部建築賞	1998年12月8日	中部建築賞協議会主催 「鯖江市役所新庁舎　鯖江･丹生消防組合庁舎」
10.建築雑誌 増刊 作品選集 1998 （日本建築学会） 掲載	1998年	「鯖江市健康福祉センター」
11.1997年度 第29回 中部建築賞	1997年12月10日	中部建築賞協議会主催 「鯖江市健康福祉センター」
12.1997年度 日本建築学会賞（業績）	1997年6月	日本建築学会主催 「サンドーム福井」
13.建築雑誌 増刊 作品選集 1997 （日本建築学会） 掲載	1997年	「サンドーム福井」
14.1996年度 第28回 中部建築賞	1996年12月10日	中部建築賞協議会主催 「サンドーム福井」
15.1995年度 国際業績賞競技1995 International Achievement Awards, 空気膜及びテンション膜構造部門 Air and Tension Structure category, Design Award（デザイン賞）及び First Place Winner（制作部門１等賞）	1995年10月9日	国際産業ファブリック協会（INDUSTRIAL FABRICS ASSOCIATION INTERNATIONAL）主催 テフロン加工のガラス繊維テント膜を張った「サンドーム福井」の天井の音響効果、断熱・結露対策、意匠、工法に対して
16.建築雑誌 増刊 作品選集 1991 （日本建築学会） 掲載	1991年	「草の実保育園」
17.建築雑誌 増刊 作品選集 1990 （日本建築学会） 掲載	1990年	「鯖江市中野大橋木造高欄」
18.「２１世紀初頭の日本の国土と国民生活の未来像の設計」競技　入賞「総合賞」	1972年3月	総理府主催

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.Intercultural Understanding vo l.7	単	2018年03月05日	武庫川女子大学トルコ文化研究センター	序文

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2.Intercultural Understanding vo l.6	単	2017年1月31日	武庫川女子大学トルコ文化研究センター	序文
3.Intercultural Understanding vol. 5	単	2015年9月30日	武庫川女子大学トルコ文化研究センター	序文
4.講演会シリーズ 「シルクロード の文化と建築」	共	2015年~継続中	武庫川女子大学出版部	武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻主催/共催 東京センターのシルクロードをテーマに掲げた講演会シリーズの記録冊子(第1～2回出版済)
5.わが国の近代建築の保存と再生	共	2014年11月	武庫川女子大学出版部	武庫川女子大学の建築学科・建築学専攻と同東京センターが2011年から開催している講演会「わが国の近代建築の保存と再生」の第1～３回の記録をまとめたもの。
6.Intercultural Understanding vol. 4	単	2014年08月31日	武庫川女子大学トルコ文化研究センター	序文
7.Design of Bamiyan Museum & Culture Center for People	単	2014年08月	Intercultural Understanding, Volume 4, 2014, pp.51-78	
8.Petra Museum Project 2013 in the Hashemite Kingdom of Jordan	共	2014年08月	Intercultural Understanding, Volume 4, 2014, pp.79-99	Shigeyuki Okazaki, Hideaki Tembata Our project for the design of the Petra Museum aims to preserve, restore and exhibit the Petra World Heritage Site. We created four designs that consider specific views of the areas that surround the site. Using computer graphics, created composite images that depict the proposed appearance of the museum for each of the four designs against the selected background pictures. We expressed our views on the issues raised by UNESCO's landscape assessment criteria and proposed including elements of Japanese landscape composition, preserving existing trees, matching the design with the stone ruins, and referencing a form that symbolizes Petra's culture.
9.ヨルダン国ペトラ博物館建設に伴う初期遺跡影響評価	共	2014年03月22日	日本西アジア考古学会　第21回西アジア発掘調査報告会報告集、平成25年度 考古学が語る古代オリエント、pp.130-134	山内 和也、岡崎 甚幸、岡田保良、濱崎 一志、天畠 秀秋、原田 怜、大石 健介、大崎 光洋、アーデル・ズレイカト ヨルダン国ペトラ遺跡に隣接する博物館を建設するにあたり、博物館建設が与える景観や遺跡への影響について、環境影響評価を行った。本報告書における景観調査を担当し、現地の写真と4つの計画案の透視図を合成する景観シミュレーションを行い、博物館がペトラにふさわしいデザインであれば、現在の景観がより価値のあるものになり、文化的なモニュメントとして活用できることを具体的に示した。
10.Intercultural understanding vol.3	単	2013年3月31日	武庫川女子大学トルコ文化研究センター	序文「均一化する世界文化：砂漠の遊牧民と文化」
11.Intercultural understanding vol.2	単	2012年3月31日	武庫川女子大学トルコ文化研究センター	序文「わが国の自然観と京町屋の伝統的住環境技術・生活態度・文化の形成」
12.京町家の環境技術と生活態度そして文化の形成	共	2012年1月31日	武庫川女子大学出版部	
13.Intercultural understanding vol.1	単	2011年3月31日	武庫川女子大学トルコ文化研究センター	序文「What Can We Gain Through Cultural Exchange?」
14.講演会シリーズ 「わが国の近代建築の保存と再生」	共	2011年~継続中	武庫川女子大学出版部	武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻主催/共催 東 京センターの近代建築をテーマに掲げた講演会シリ ーズの記録冊子(第1～14回出版済)
15.人間計測ハンドブック 応用編 5.2.4 建築空間と避難行動	共	2003年8月	朝倉書店	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
16.国民生活と国土の未来像 21世紀研究会編	共	1972年3月	鹿島出版会	
2 学位論文				
1.建築空間における歩行のためのシミュレーションモデルの研究	単	1977年8月	京都大学	
3 学術論文				
1.中央アジア仏教寺院における祠堂建築の空間構成の類型:礼拝対象物の配置に着目して（査読付）	共	2018年12月	日本建築学会計画系論文集，第83巻，第754号，pp.2441-2451	中村優花，岡崎甚幸 中央アジアにおける仏教寺院の祠堂建築を、建築学の立場から網羅的に考察し、その平面形態、祠堂内における主要な礼拝対象物（仏塔、仏像）および礼拝対象物の配置に着目して、祠堂建築の空間構成の特徴を分析し、空間構成を類型化した。それを踏まえ、祠堂内で行われた礼拝行為を推測することにより、祠堂建築が持つ空間の意味の変容についても考察を行った。
2.The Analysis of the Characteristic of Composition Elements for the Traditional Townscape by Inductive Logic Programming: Focusing on Bamboo Blinds in the Gionshinbashi District（査読付）	共	2017年3月	Institute of Turkish Culture Studies, Intercultural Understanding, Vol.7, pp.31-40	田中佑奈，岡崎甚幸 京都の祇園新橋地区を対象に、新橋通りに面する南北両側の町並みのファサードの特徴を、簾の有無に着目して分析する。一階述語論理に基づき、各建物のファサードの各構成要素の属性情報を記述し、帰納論理プログラミング(ILP)に入力し、南北両側の固有の分類規則を、簾の有無それぞれの場合において抽出した。
3.Design of Hanshin Electric Rai lway Naruo Station with Plank Sheets（査読付）	共	2017年1月	Institute of Turkish Culture Studies, Intercultural Understanding, Vol. 6, pp.23-30	岡崎甚幸，川口衛，田川浩之，杉浦徳利，猪股圭佑，森本順子，山口 彩 阪神電車鳴尾駅における、プランクシートをシェルの構造体として用いるために行った構造実験とそれにより最低限の部材によって構成された駅舎の設計について報告した。下地材が不要なプランクシートによって壁と天井が一体となり、階段やエスカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見える駅舎空間を実現した。
4.帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 －京都の重要伝統的建築物群保存地区　産寧坂および祇園新橋を対象にして－（査読付）	共	2016年12月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集11，pp.65-74	田中佑奈，岡崎甚幸 京都の祇園新橋地区及び産寧坂地区を対象に、各建物のファサードを構成する屋根や開口部、植栽等の構成要素に着目し、町並み景観の特徴を把握することを目的とする。各構成要素に、タイプ・立面上の配置・色彩・形態の4つの属性情報を一階述語論理に基づいた記述を作成し、帰納論理プログラミング(ILP)により抽出された規則から、両地区の町並み景観全体における「構成要素」の特徴を抽出した。
5.A STUDY OF THE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL ROW HOUSES' FACADE IN THE ALLEY IN KARAHORI, OSAKA, JAPAN　APPLYING INDUCTIVE LOGIC PROGRAMMING（査読付）	共	2016年7月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 4th International Conference, Selected Papers, pp.171-178	田中佑奈，岡崎甚幸，杉浦徳利 大阪市空堀地区を対象に、路地に面するファサードによる空間構成の特徴を、帰納論理プログラミング(ILP)を用いて分析する手法の構築を目的とする。路地に面する各建物のファサードの3 次元モデルを作成し、構成要素の種類および構成要素間の幾何学的関係について、一階述語論理に基づく記述をILPにより分析した結果、伝統的な長屋固有の空間構成の特徴を抽出した。
6.DEVELOPMENT TYPES OF BUDDHIST TEMPLES: CENTRAL ASIA AND XINJIANG UIGHUR（査読付）	共	2016年07月	iaSU2016 4th International Conference on Archi-Cultural Interactions	中村優花，岡崎甚幸 中央アジアにおける地上寺院、石窟寺院それぞれの空間構成について概観し、空間構成を分類した上で、3D図式を用いて、空間構成の発展の類型を示した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			through the Silk Road Selected Papers: pp. 71-77	
7.Features of the Earth in the Q ur'an: Focusing on the Relati onship between God and Human B eings (Proceedings, 査読付)	共	2016年07月	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Proceedings, pp. 93-98	山口 彩，岡崎甚幸 イスラームの教典であるクルアーンに記される大地を意味するアラビア語「ard」451個を対象に、神や人との関係に着目して分類した。その結果32の類型を抽出し、クルアーンに記される大地の特徴を見出すことができた。研究指導。
8.Study of the Thermal Bath with in Hisham's Palace by Utilizin g a Reconstructed Model and a Simulation of the Internal Spa ce (Proceedings, 査読付)	共	2016年07月	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Proceedings, pp. 49-54	川崎祐華，中村優花，山口 彩，岡崎甚幸 パレスチナのヒシャム宮殿の浴場を対象とし、1/10の復元模型を制作し、内部の光環境シミュレーションを行った。そこでは、複数の小窓から自然光が暗い空間に入り、色彩に富んだ床のモザイクタイルに当たって乱反射し、幻想的な空間を作っていることを確認した。
9.Types of Mountains in the Qur'an: With a Focus on the Relationships between God and Man and Mountain (査読付)	共	2014年08月	Intercultural Understanding, Vol. 4	Aya Yamaguchi，Shigeyuki Okazaki
10.Significance of the Architectural Space and Mountains in the Christian Art of the Inner Narthex of the Chora Church (査読付)	共	2014年08月	Intercultural Understanding Vol.4	猪股圭佑，岡崎甚幸 コーラ修道院の内ナルテクスのドームにおける壁画の主題及び配置を分析することによって、壁画に表現された山と建築空間の意味を明らかにすることを目的とし、モザイクで装飾された建築空間の断面展開図や合成写真を用いて、内ナルテクスの北ドーム及び南ドームで山が描かれている建築空間の分析及び考察を行った。
11.慢性期統合失調症者を対象とした 居住空間構成法の空間構成の類型 -風景構成法との比較を通して- (査読付)	共	2014年04月	日本建築学会計画系論 文集,第79巻,第698号 ,pp. 1015-1024	柳沢和彦，岡崎甚幸
12.The Spatial Composition of Buddhist Temples in Central Asia, Part 1: The Transformation of	共	2014年01月	Intercultural Understanding, Volume 6: pp. 31-43	中村優花，岡崎甚幸 仏塔の変遷について、どの構成要素が具体的に追加、除去、踏襲されたかを示した上で、3D図式を用い、変遷を示したフローチャートを視覚的な手法で提示した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Stupas.（査読付き）				
13.Enclosed Spaces of Ancient Japanese Cites and Watersheds: Analysis of Mountain Ranges and Water Systems of Kyoto, Nara, Dazaifu, and Kamakura Using a Three-dimensional Terrain Model（査読付）	共	2013年03月	Intercultural Understanding, Vol. 3, pp.41-47	Hideaki Tembata, Shigeyuki Okazaki In this paper, we used a three-dimensional terrain model to study the relationships between the enclosed spaces of Kyoto, Nara, Dazaifu, and Kamakura and their watersheds. Most previous studies used two-dimensional maps and concluded that these four cities have similar enclosed spaces surrounded by mountains. However, in this study, we analyzed enclosed spaces through watersheds in a wide area using a three-dimensional terrain model and clarified the following points: 1) The Kyoto’s basin area is about nine times as large as that of the Nara Basin. 2) Dazaifu’s enclosed space is open to the southeast and the northwest, and its basin area is much smaller than Kyoto and cannot store water like the other three cities. 3) Kamakura’s enclosed space is surrounded by mountains in three directions and can store water, but its basin area is the smallest among the four cities. 4) Kyoto has the largest basin area among the four cities.
14.Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Monastery of Hosios Loukas（査読付）	共	2012年03月31日	Intercultural Understanding Vol.2	猪股圭佑，岡崎甚幸 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにして、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の機能と比較考察した。その結果オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画においても、コーラ修道院の場合と同様に、山は世界を区分する枠として描かれていることが考察された。
15.Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Turkish Students Based on Landscape Montage Technique（査読付）	共	2012年	Intercultural Understanding, vol. 2, pp.65-70	Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.
16.コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型－人物との関係に着目して－（査読付）	共	2011年12月	日本建築学会計画系論文集　第76巻，第670号，pp2477-2485	猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦 コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、人物との関係に着目してその類型を抽出し、それら類型の意味を明らかにすることを目的として分析及び考察を行った。山は、「人物の横にある山」では街の外の危険な世界を象徴し、「人物を縁取る山」では枠づけされた特別な意味を持つ場所を示し、そして「人物の横にある山＋人物を縁取る山」では両者の特徴とともに神の世界へと繋がる場所を示していると考えられる。
17.Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Chora Church（査読付）	共	2011年03月	Intercultural Understanding Vol.1	猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦 コーラ修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにすることを目的として、分析及び考察を行った。山は、1つの画面を、聖書の物語の異なる場面に区分し、さらに、1つの場面を異なる領域に区分する機能を持っていることが明らかとなった。
18.Eye Movements while Ascending and Descending Staircases in Koshien Hotel（査読付）	共	2011年03月	Intercultural Understanding Vol.1, pp.59-71	鈴木利友，岡崎甚幸
19.Architectural Meaning of a River That Connects the Left and Right	共	2011年	Intercultural Understanding, vol.1, pp.113-120	Yanagisawa, K., & Okazaki, S.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Sides of Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patient s Based on Landscape Montage T echnique: Similarity to Tradit ional Japanese Space(査読付)				
20.Types of Rivers with Respect to Frame, Drawn by Chronic Schizophrenic Patients Based on Landscape Montage Technique: Similarity to Traditional Japanese Space	共	2011年	Istanbul: Bahcesehir University Press, ARCHI-CULTURAL TRANSLATIONS THROUGH THE SILKROAD, pp.55-65	Yanagisawa, K., & Okazaki, S.
21.住まいにおける「真・善・美」	単	2004年04月	日本官能評価学会	
22.建築空間における歩行と視覚探索	共	2004年01月	心理学評論　46巻　３号	岡崎甚幸・鈴木利友 安全かつ快適な建築空間の設計を目指す立場から、群集の歩行行動を可視的に予測し、複雑な群集歩行が再現可能なシミュレーションモデルを開発した。また、歩行行動と物理的環境の関係を解明するための原点である視覚探索を調べるため、歩行者にアイカメラや制限視野マスクを装着して実験を行った。その結果、探索歩行時および階段、飛石歩行時の注視行動の諸特性や、中心視と周辺視の協応が果たす重要な役割などを明らかにした。担当（pp.330～349）
23.建築・都市計画における人間行動の分析に関する研究部会	共	2003年06月	シミュレーション＆ゲーミング　13巻　１号	岡崎甚幸・鈴木利友 ゲーミング・シミュレーションの手法を活用し、仮想迷路における集団の探索行動を例に、生活空間における人間行動を実験的に調査した。これにより、建築・都市空間を設計、評価するための知見を得ることを目指した。またゲーミング・シミュレーションを用いて明らかにした人間行動が、現実空間における人間行動とどのような関係にあるのかについても仮想および現実地下鉄駅舎における探索行動実験を例に調査した。担当（pp.110～111）
24.探索歩行時にみられる特徴的行動と中心視および周辺視	共	2003年02月	人間工学　39巻　１号	吉岡陽介・一色高志・岡崎甚幸 探索歩行時に特徴的な行動と中心視、周辺視との関わりを解明するため、制限視野法を用いた迷路内探索歩行実験を行った。今回使用した制限視野マスクは中心視野や周辺視野の一部など、任意の視野範囲を正確に制限することのできるものである。実験の結果、中心視のみが機能していれば可能な行動、周辺視のみが機能していれば可能な行動、中心視と周辺視が同時に機能することによって初めて可能な行動が明らかになった。担当（pp.９～15）
25.迷路内探索歩行において周辺視が果たす役割	共	2003年02月	人間工学　39巻　１号	吉岡陽介・一色高志・岡崎甚幸 迷路内探索歩行時において周辺視が果たす役割を解明するため、制限視野法を用いた歩行実験を実験用迷路内で行った。その結果経路を探索しながら歩行する時には、身体近傍の空間や複雑な経路空間を効率よく把握するために周辺視を有効に活用する必要があること、しかし一度経路を学習すれば、周辺視を活用しなくても経路空間の特徴的な部分を見つけ出せるようになり、正確に目的地まで到達できることなどを明らかにした。担当（pp.１～８）
26.茶室露地における飛石歩行の際の注視行動	共	2002年10月	日本建築学会計画系論文集　560号	中村祐記・岡崎甚幸・鈴木利友 アイカメラを装着した被験者が、飛石の歩き方を何も教示しない状況で茶室露地を歩行する実験と、飛石の歩き方を教示した後で露地を歩行する実験を行った。その結果、飛石に従って歩行することに

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				よって、植栽への注視が減少し添景物などへの注視が増加すること、役石ごとに分節化された注視行動によって露地が捉えるようになることなど、歩行者の注視行動が確実に変化することが示された。担当（pp.151～158）
27.風景構成法に基づく広重の風景版画の空間構成に関する研究　－「枠」と川との関係に着目して－	共	2002年09月	日本建築学会計画系論文集　559号	柳沢和彦・岡崎甚幸 本論の目的は、風景構成法で得られた「枠」に対する川の類型化の知見に基づきながら、広重の風景版画において「枠」に対する川の類型を抽出し、その空間構成の特徴を明らかにすることである。分析の結果、「彼岸なしの川」「此岸なしの川」「左右の枠を結ぶ川」「下枠と横枠を結ぶ川」「地平線と下枠を結ぶ川」など７種類の川の類型を抽出し、各川毎に広重の空間構成の特徴を明らかにした。担当（pp.179～186）
28.地下鉄駅舎出入口における階段歩行時の注視行動	共	2002年08月	日本建築学会計画系論文集　558号	鈴木利友・岡崎甚幸 階段歩行時の注視行動を明らかにするため、アイカメラを装着した被験者が地下鉄駅舎出入口の階段を上る実験と下る実験を行った。階段上り歩行時、下り歩行時ともに、注視は階段付近や床遮蔽縁、壁遮蔽縁付近に集まり、これらが見えるかどうかが注視行動に大きく影響することが分かった。ただ、これらをとらえる注視行動は、階段上り歩行時と下り歩行時で大きく異なることが明らかになった。担当（pp.151～158）
29.Analysis of Architectural Space Compositon Using Inductive Logic Programming	共	2002年07月	Artificial Intelligence in Design ’02	Noritoshi Sugiura, Shigeyuki Okazaki 建築系および非建築系の学生それぞれ４人に対して居住空間構成法の実験を行い、帰納論理プログラミングを用いて、両系それぞれに固有な空間構成過程の諸特徴であるパターンを抽出した。両系のパターンを比較することにより、「配置された要素の被験者に対する角度」、「要素の連鎖を伸長する方法」、「３つ以上の要素による構成」という点で、両系の学生の空間構成過程に違いが見られることがわかった。担当（pp.131～151）
30.地下鉄駅舎とその仮想現実空間における探索歩行時の注視と歩行行動の比較	共	2002年05月	日本建築学会計画系論文集　555号	鈴木利友・岡崎甚幸 キーボードと平面スクリーンを用いた仮想現実空間の中で、人間行動を調べる際に留意すべき点を明らかにするため、仮想および現実の地下鉄駅舎で、アイカメラを装着した被験者が電車を降り、指定された出口を探す実験を行った。その結果、仮想現実空間での歩行では短時間注視がほとんどないこと、障害物と自己の身体との距離の把握が困難になること、現実空間の歩行では見られない受動的注視などが生じることが明らかになった。担当（pp.199～205）
31.廊下および階段歩行時に活用されている視野範囲	共	2002年04月	人間工学　38巻２号	吉岡陽介・岡崎甚幸 廊下や階段など日常の生活空間を歩行するとき、歩行者は歩行場面ごとに異なる範囲の視野を選択的に活用していると予想した。このことを定量的に検証するため、制限視野法を用いた歩行実験を行った。その結果、歩行時における選択的な視野の活用範囲は、階段や曲がり角などの歩行局面ごとに固有な方向への「広がり」を持っていること、歩行行動全般を通して常に耳側方向への「広がり」を持つ傾向にあることなどが推察できた。担当（pp.104～111）
32.風景構成法の「枠」に対する「川」の類型化およびそれに基づく空間構成に関する一考察　－幼稚園児から大学生までの作品を通して－	共	2001年08月	日本建築学会計画系論文集　546号	柳沢和彦・岡崎甚幸・高橋ありす 幼稚園児から大学生までを対象に風景構成法を実施し、特に風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目して、最初にまず描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるか分析した。その結果「此岸なしの川」「左右の枠を結ぶ水平の川」「隅の川」「上下の枠を結ぶ垂直の川」「下枠と横枠を結ぶ川」「先細りの川」など10種類の「川」の類型を抽出した。そして得られた川の類型に基づいて、空間構成の発達の変容を明らかにした。担当（pp.297～304）
33.帰納論理プログラミングを用いた空間構成過程の解析　－居住空間構成法による空間構成過程における固有な規則の抽出－	共	2001年08月	日本建築学会計画系論文集　546号	杉浦徳利・岡崎甚幸 居住空間構成法による空間構成過程を、道具の種類、道具間の幾何学的二項関係等から成る関係構造データとして定式化し、帰納論理プログラムを用いて、空間構成過程に潜む規則を抽出する方法を提案した。建築を専攻する学生による空間構成過程をこの手法を用いて分析した。得られた規則から、各実験事例に固有な特徴「Ｌ型の囲いの構成」「非連続の囲いの構成」「縦方向の層状の構成」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				「マット状の道具による構成」が導かれた。担当（pp.141～148）
34.地下鉄駅舎における探索歩行時の注視に関する研究	共	2001年05月	日本建築学会計画系論文集　543号	鈴木利友・岡崎甚幸・徳永貴士 アイカメラを装着した被験者が地下鉄駅舎内を探索歩行する実験を行い、屋内迷路探索歩行実験と比較しながら注視行動を分析した。その結果、注視対象によって注視時間分布の違いが生じること、サインなどに対しては反復的注視や集中的注視が生じること、斜交い注視は階段や天井などによって構成される水平な遮蔽縁越しにも生じること、経路学習が進むと注視対象が変化することなどが分かった。担当（pp.163～170）
35.情報交換を伴う仮想迷路探索行動実験	共	2001年05月	日本建築学会計画系論文集　543号	鈴木利友・岡崎甚幸 仮想現実空間内で複数の被験者が自由に情報交換しながら探索歩行が可能なマルチユーザ型システムを構築した。４人の同一被験者群に対し、２人ずつが組になり他の組と競争して目的地を探索する競合協調型の探索行動実験と、４人の被験者が協調して目的地を探索する協調型の探索行動実験を行った。これらの実験結果から、実験中にみられる探索行動や会話の種類、実験後の被験者が描いた地図の特徴などについて考察を行った。担当（pp.155～162）
36.視野制限下と通常視野での注視行動の比較：廊下および階段の歩行時において	共	2001年02月	人間工学　37巻１号	黒岩将人・岡崎甚幸・吉岡陽介 アイカメラを装着して廊下および階段を歩く通常視野実験と、新しく開発した周辺視野を制限するマスクを装着して同じ場所を歩く制限視野実験の結果の比較を行った。その結果、制限視野下では、進行方向の床を注視して歩く傾向があること、曲がり角で大回りをすること、足や手がアンダーリーチングになること、階段の下り始めに極端に歩行速度が落ちること、階段上り歩行時に足を擦らせて歩くことなどが分かった。担当（pp.29～40）
37.Change in Eye-head-body Movements during Maze Learning	共	2000年12月	Perceptual and Motor Skills　91号	Shigeyuki Okazaki, Tohru Kitahama, Toshiaki Miura, Kazumitsu Shinohara アイカメラを装着した被験者が迷路内のスタートからゴールを目指して２、３回歩く実験を行った。その結果の分析によって、経路学習による注視、頭部、身体運動の変容を明らかにした。注視は散発的注視が減少し流動的注視が増加する。頭部運動は微動移動が減少し連続移動が増加する。注視、頭部、身体の協応関係は、最初の試行ではランダムで複雑であるが、試行を重ねるにつれて相互が連動するようになる。担当（pp.1230～1230）
38.迷路探索歩行時の注視と歩行に関する研究	共	1999年06月	人間工学　35巻３号	北濱亨・三浦利章・岡崎甚幸・篠原一光・田村仁志・松井裕子 アイカメラを装着した被験者が、迷路内のスタートからゴールを目指して２、３回歩き、その後迷路の風景と地図を描く実験を行った。そして注視点の位置、注視時間、注視距離、頭部や身体の移動軌跡など、実験で得られる複雑なデータを表示し、解析する方法を提案した。そして探索歩行時の注視、頭部、身体の協応関係は、最初の試行ではランダムで複雑であるが、試行を重ねるにつれて相互が連動するようになることなどを解明した。担当（pp.145～155）
39.幼稚園児の居住空間構成法と描画に見る図式の研究	共	1999年05月	日本建築学会計画系論文集　519号	柳沢和彦・岡崎甚幸・菊池憲一・難波美絵 居住空間構成法を用いて幼稚園児に幼稚園の模型を作ってもらう。同時に幼稚園を絵に描いてもらう。本論の目的は、模型とそれに対する描画を比較し、両者に共通する園児の図式を解明することであり、構造化前における囲う図式、同じものを繰り返し配置する図式、ものを自分に対面させて配置する図式、空間構成や表現様式が共に構造萌芽する図式、内外空間を区別する図式、空間全体を統括する図式などが判明した。担当（pp.309～316）
40.居住空間構成法と幼稚園児	共	1999年04月	日本建築学会計画系論文集　518号	岡崎甚幸・柳沢和彦・難波絵美 居住空間構成法は筆者達が考案したものである。家具、人形、モデュール化された各種の壁等、1/50のミニチュア模型を、60cm×90cmのホワイトボード上に配置して生活空間を構成してもらい、それによって制作者の図式を解明するものである。本論では24人の幼稚園児に延べ40例の幼稚園の模型を制作してもらい、原初的な「偏在」から始まり「室群統括」へと構造化されていく、彼らの空間図式の発達的特徴を解明した。担当（pp.313～320）
41.居住空間構成法によ	共	1998年	箱庭療法学研究	岡崎甚幸・難波美絵・柳沢和彦

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
る幼稚園児の空間図式の研究			11巻　２号	居住空間構成法という治療可能性を持つ技法の紹介、ならびに23人の幼稚園児に延べ38例の理想の幼稚園を制作してもらうことにより判明した、幼稚園児の制作過程や空間図式の特徴（偏在、一様分布、制作者に対面する道具配置、枠の方向に沿った道具配置、原初的な囲い、列状配置、家具による多様な場の構成、囲いの萌芽としての様々な壁の使用、囲い、および廊下のある構成）を述べた論文。担当（pp.３～15）
42.居住空間構成法と知的障害児	共	1997年06月	日本建築学会計画系論文集　496号	岡崎甚幸・大井史江・山口直子・浦崎寿輝 居住空間構成法は筆者達が考案したものである。家具、人形、モデュール化された各種の壁等、1/50のミニチュア模型を、60cm×90cmのホワイトボード上に配置して生活空間を構成してもらい、それによって制作者の図式を解明するものである。本実験では60人の知的障害児が理想の学校の模型を制作した。本論では各模型とその制作者を分析することで、特徴的な空間構成を明らかにし、それから潜在的な図式を解明した。担当（pp.237～245）
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.Restoration and Conservation of Traditional Timber Structures in Japan	単	2018年04月24日	Symposium on Restoration and Conservation of Traditional Timber Structures 6: Istanbul Metropolitan Municipality, Department ob Cultural Assets Conservation Directorate for the Conservation, Implementation and Supervision of cultural Assets (KUDEB)	トルコ・イスタンブール都庁 文化財保存局主催「第6回 伝統的木造建築の修復と保存」シンポジウムに招待され「日本の伝統的木造建築の修復と保存」について講演を行った。
２．学会発表				
1.朝日エティック株式会社 大阪工場庭園	共	2018年9月	2018年度日本建築学会大会(東北)建築デザイン発表梗概集G-1 pp.48-49	山口彩，岡﨑甚幸，猪股圭佑，森本順子 武庫川女子大学大学院建築学専攻では、朝日エティック株式会社より同社大阪工場敷地内に従業員のための庭園の設計依頼をうけ、発注者や施工者と産学連携で庭園設計に取り組んだ。演習で学生が庭園の詳細設計を行い、造園会社の協力を得て造成工事および植樹を体験した。本稿はそのプロジェクトに関する報告。
2.帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 －京都の祇園新橋地区における簾の有無に着目して－	共	2018年9月	日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集都市計画部門，pp.501-502	田中佑奈，岡﨑甚幸 京都の祇園新橋地区を対象に、新橋通りに面する南北両側の町並みのファサードの特徴を、簾の有無に着目して分析する。各建物のファサードを構成する屋根や開口部、植栽等の各構成要素に、タイプ、立面上の配置、色彩、形態の4つの属性情報を、一階述語論理に基づき記述する。以上の記述を機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)に入力し、南北両側の固有の分類規則を、簾の有無それぞれの場合において抽出する。その結果、簾の掛かる場合には、構成要素の形態に様々な特徴がある北側の町並みと、建築的な構成要素に水平方向の形態に関する特徴が見られる南側の町並みとの違いが見られる。簾を外した場合には、格子の形態に多様な特徴が見られる北側の町並みに対し、南側の町並みは、木製の構成要素に特徴が見られる。以上により、特に構成要素の形態及び色彩に関する特徴の違いを導くことができた。
3.The Transformation of Shrines: The	共	2017年11月	ARCHTHEO ’17 / XI.	Yuuka Nakamura, Shigeyuki Okazaki 中央アジアの地上仏教寺院における祠堂の変遷について、文献調査

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Spatial Composition of Buddhist Temples in Central Asia, Part 2			International Conference on Theory and History of Architecture, Istanbul, Turkey : pp. 96-112	の上、平面、天井、壁の形態に着目して、空間構成を4つの類型に大別した。類型別に、どの構成要素が具体的に追加、除去、踏襲されたかを示した上で、3D図式を用い、変遷を示したフローチャートを作成。これまで文字情報でしか伝達されなかった空間構成の変遷を視覚的な手法で提示した。
4.Serpente Tower	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築 デザイ ン発表梗概集G-1, pp.282-283	池澤萌子，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋，山口 彩 バロック様式の動的表現にみられるねじれに着目し 、建築に巻きつく蛇をデザインモチーフとし、ねじれを外観で表現した超高層建築を提案した。(設計指導を担当)
5.祈りの道を辿る -海を望む教会 堂へのアプローチの提案-	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築 デザイ ン発表梗概集G-1, pp.424-425	平田望留，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋，山口 彩 長崎の教会堂は、キリシタンたちが迫害から隠れら れるように、海や斜面の近くで、舟で訪れるような 場所に多い。それを踏まえた敷地を五島列島の島に 想定し、桟橋から教会堂に至るアプローチ空間の設 計を行った。(設計指導を担当)
6.バーミヤーン仏教寺院 復元設計 計画	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築デザイン発表梗概集G-1, pp.1 36-137	白原綾乃，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋，山口 彩 古代のバーミヤーンの寺院を推測した上で、複数の 寺院と商業空間からなる復元設計を、一つの仮説として行った。これにより、危機に瀕しているバーミ ヤーン遺跡の文化的価値が再び見直されることを目的とした。(設計指導を担当)
7.阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その3 上りホーム床モザイクタ イル画のデザイン	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築デザイ ン発表梗概集G-1, pp.4 14-416	ボズクルツベイザヌル，岡崎甚幸，川口衛，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順子，山口 彩，吉野有里恵 武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオおよび 同大学院 建築学専攻 修士課程1・2 年生の9 名は、 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 上りホーム床の モザイクタイル画10 点を制作した(2016年度後期に 実施)。モザイクタイル画のテーマ決定から、図案 検討、現場で施工する一段階前のシート貼りまでの 作業について報告する。
8.Expressionism Architecture	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築 デザイ ン発表梗概集G-1, pp.432-433	奥野由布子，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋，山口 彩 表現主義の建築のように、自己の内面の表現として の建築を設計することを目的とし、新たな展示空間 の提案を行った。(設計指導を担当)
9.阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その1	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築 デザイ ン発表梗概集G-1, pp.410-411	吉野有里恵，岡崎 甚幸，川口衛，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順子，山口 彩，ボズクルツベイザヌル 武庫川女子大学の玄関口である阪神電車鳴尾駅のプ ロジェクトにおいて、詳細図やCGパース、模型を作 成し、コストや施工方法にも配慮したディテールを 検討し、外観やホーム、コンコースなどのデザイン を提案した。打合せでは、作成した図面や模型を用いて学生自らがプレゼンテーションを行っている。2015年3月に阪神電車鳴尾駅下りホーム、2017年3月に 上りホームが完成した。本稿ではプランクシートを 用いたことにより最低限の部材によって構成された 駅舎空間の設計について報告する。
10.尼崎の工場敷地内 庭園計画 その1	共	2017年09月03日	2017年日本建築学会大 会(中国) 建築デザイン 発表梗概集G-1, pp.154-155	磯上奈穂美，岡崎甚幸，猪股 圭佑，森本順子，山口 彩，奥田まり，平嶋奈弥 兵庫県尼崎市に工場を構える、朝日エティック株式 会社の工場敷地内の一角に、従業員が安らげる庭園 を計画する。対象敷地は沿岸部の埋立地で、海風が きつく、時より突風が吹くなど植物にとって気候条 件の厳しい地域である。設計に先立って、クライア ントが持っている天龍寺のモミジの苗木を植えたい 、従業員と花見をしたいなどの要望があり、さらに この敷地の一部に2台分の駐車場も含めることが設 計条件であった。それらを踏まえて、本設計では日本の回遊式庭園となるようにデザインを行った。
11.尼崎の工場敷地内 庭園計画 その2	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会建築(中国) デザイ ン発表梗概集G-1, pp.156-157	奥田まり，岡崎甚幸，猪股 圭佑，森本順子，山口 彩，磯上奈穂美，平嶋奈弥 本計画は朝日エティック株式会社の大阪工場敷地内 に庭園を設計するものである。植栽計画ならびに照 明計画の概要、庭園灯の設計について述べる。本計 画では、庭園が四季折々の表情を見せるよう植

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				物の 選定、配置を行った(図1、図6)。また、オオシマザ クラ・モミジ・アラカシといった中・高木をシンボ ルツリーとして配置し、その周りに歩行空間や人が 集い、憩うための空間を計画した。季節毎に表情を 変える植物の見どころを存分に際立たせつつ、庭園 に適当な明るさを与えるような照明計画を行った。
12.Migration Architecture	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築 デザイン発表梗概集G-1, pp.3 84-385	大原こころ，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋，山口 彩 建築や庭園でみられる回遊行動を3つのタイプに分 類した上で、空間をめぐることによってこれら3つ のタイプの回遊行動を行い、回遊性を感じられる展 示空間の提案を行った。(設計指導を担当)
13.阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その2 プランクシートの表面温 度計測および構造実験	共	2017年09月03日	2017年度日本建築学会 大会(中国) 建築デザイ ン発表梗概集G-1, pp.4 12-413	山口 彩，岡﨑 甚幸，川口衛，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順子，杉浦徳利，吉野有里恵，ボズクルツベイザヌル プランクシートをシェルの構造体として用いるため に行った表面温度計測試験や構造実験の概要、現場 での施工について報告する。下地材が不要なプラン クシートによるプラットホーム上屋では、階段やエ スカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客 に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見え る。今回の設計を通して、建築材料、特に仕上材や 構造材としては一般的でないプランクシートの有効 性を示し得た。阪神電車鳴尾駅におけるプランクシ ートを構造体として使用し、最低限の部材によって 壁と天井が一体の空間を構成する手法は、駅舎など 記号性が求められる建築の設計に有効であろう。
14.エル・カズネの前に建つ劇場	共	2017年09月02日	2017年度日本建築学会大会(中国)建築 デザイン発表梗概集G-1, pp.270-271	神本希美，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋，山口 彩 ヨルダンにある遺跡の一つであるエル・カズネの前 に、遺跡を舞台背景とし、必要なときのみ組み立て られる仮設の劇場を設計した。(設計指導を担当)
15.公共建築の中にある「個」の空間	共	2017年09月01日	2017年度日本建築学会 大会(中国)建築 デザイ ン発表梗概集G-1, pp.1 94-195	永田瑞季，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋，山口 彩 人々が集う空間を「集」の空間、一人ひとりのため の空間を「個」の空間としてとらえ、両者の関係を 築くことができる公共施設を提案した。(設計指導を担当)
16.中央アジア仏教建築の空間構成要素に着目したクラスター分析による類型化	共	2017年07月	2017年度日本建築学会大会（中国）学術講演会: pp. 823-824	中村優花，岡﨑甚幸 地上仏教寺院に見られる構成要素を抽出し、統計ソフトウェアを用いた階層的クラスター分析によって、構成要素の視点から見た仏教建築の類型について考察し、大きく3つの類型に大別、小分類としてさらに7つに分けられると定義し、それぞれの類型について、3D図式をイメージ図として用い、提示した。さらに、寺院の類型と建造（あるいは使用）年代、地理的環境について比較考察を行い、7つの類型と時代的変遷、地理環境との関係を明らかにした。
17.The Characteristics of Spatial Composition in Buddhist Temple Remains：Focused on Central Asia and Xinjiang Uighur	共	2016年09月	Proceedings of the 11th ISAIA, Sept.20-23, 2016, Miyagi, Japan: pp. 986-991	Yuuka Nakamura，Shigeyuki Okazaki 地上仏教寺院に抽出される建築構成要素に着目し、構成要素間の相関分析を行い、要素間の相関値を評価することで、空間構成を特徴づけた
18.旧甲子園ホテルの酒場のテーブルの復元	共	2016年08月26日	2016年度日本建築学会大会(九州)建築デザイン発表会，学術講演梗概集 2016(建築デザイン)，pp. 396-397	伊藤知夏，今川泰江，岡﨑甚幸，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順子，山口 彩 甲子園ホテルは、フランク・ロイド・ライトの愛弟子である遠藤新の設計により1930（昭和5）年に竣工した。本プロジェクトでは、甲子園ホテル時代の写真をもとにそこで使用されていた家具の復元を行い、当時の室内空間の再現を試みた。そのデザインの着想は、甲子園ホテルの建物のデザインを意識し、その特徴を反映させていると推察する。今後、甲子園ホテルの装飾について研究する上でも重要と考え、酒場で用いられていた椅子を復元した。（建築設計実務における指導）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
19.旧甲子園ホテルの酒場の椅子の復元	共	2016年08月26日	2016年度日本建築学会大会(九州)建築デザイン発表会，学術講演梗概集 2016(建築デザイン)，pp. 394-395	今川泰江，伊藤知夏，岡﨑甚幸，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順子，山口 彩 旧甲子園ホテルの酒場の椅子に引き続き、テーブルについても復元を試みた。酒場のテーブルは、椅子とセットで設えられており、旧甲子園ホテルの内部空間を研究する上で重要と考える。（建築設計実務における指導）
20.阪神電車鳴尾駅の歴史的風景とし ての「鳴尾の一本 松」の絵の提案	共	2016年08月26日	2016年度日本建築学会大会(九州)建築デザイン発表会，学術講演梗概集 2016(建築デザイン)，pp. 400-401	今治こみ加，髙田悠希，尾崎綾，谷なつき，岡﨑甚幸，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順子，山口 彩 阪神鳴尾駅自由通路内中央の柱（高さ4700 ㎜、一辺1100㎜）に武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ一級建築士事務所と同大学院建築学専攻修士課程１年による一本松のモザイクタイル画を提案した。この柱は駅改札口前の中央、最も人通りの多い場所にある。街のシンボルとするのにふさわしい場所と考え、この柱に地域の歴史的風景である「鳴尾の一本松」の絵を施すことを検討してる。（阪神電車鳴尾（武庫川女子大前）駅の設計提案、建築設計実務における指導。）
21.阪神電車鳴尾駅の自由通路の柱に おけるモザイクタイル画の制作方 法の提案	共	2016年08月26日	2016年度日本建築学会大会(九州)建築デザイン発表会，学術講演梗概集 2016(建築デザイン)，pp. 402-403	髙田悠希，今治こみ加，尾崎綾，谷なつき，岡﨑甚幸，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順子，山口 彩 阪神電車鳴尾駅の自由通路の柱を題材に、まちの歴史的風景として「鳴尾の一本松」をモザイクタイル画で描く。本稿ではモザイクタイルでの表現方法や柱のディテールについて提案した。（阪神電車鳴尾（武庫川女子大前）駅の設計提案、建築設計実務における指導。）
22.クルアーンにおける大地の特徴 – 神と人との関係に着目して –	共	2016年08月24日	2016年度日本建築学会 大会(九州)学術講演会，学術講演梗概集 2016(建築歴史・意匠)，pp. 701-702	山口 彩，岡﨑 甚幸 イスラームの教典であるクルアーンに記される大地 を意味するアラビア語「ard」451個を対象に、神や 人との関係に着目して分類した。その結果、32の類 型を抽出し、クルアーンに記される大地の特徴を見 出すことができた。
23.Hisham’s Palaceの浴場の原形の復元模型による検討と内部空間のシミュレーション	共	2016年08月24日	2016年度日本建築学会 大会(九州)学術講演会，学術講演梗概集 2016(建築歴史・意匠)，pp. 699-700	川崎祐華，中村優花，山口 彩，岡﨑甚幸 パレスチナのヒシャム宮殿の浴場を対象とし、1/10 の復元模型を制作し、内部の光環境シミュレーショ ンを行った。そこでは、複数の小窓から自然光が薄 暗い空間に入り、色彩に富んだ床のモザイクタイル に当たって乱反射し、幻想的な空間を作っているこ とを確認した。
24.都市の森	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州)，pp.182-183	平嶋奈弥，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 山の輪郭をモチーフとした屋根と、樹木をモチーフとした柱をもつ建築を例に、自然界の形態をモチーフとした建築設計の可能性を提案した。
25.Surrealism Architecture	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(州)，pp. 422-423	奥田まり，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 人に見られる側の世界に属する建築をシュルレアリスム的な手法を用いて生み出すことにより、見る者の記憶や本能、連想に語りかけ、幾通りもの想像に応えうる空間を有する形態を Surrealism Architecture として提案した。
26.木造のゴシック建築	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州)，pp.292-293	磯上奈穂美，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 木造建築の素晴らしさを多くの人に伝えられるよう、大仏様建築（浄土寺浄土堂、東大寺南大門）の意匠を参考に、ゴシック建築の教会を提案した。
27.海触洞を臨む拝殿	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州)，pp.286-287	野﨑奈緒美，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 本殿を持たない神社の提案を行い、自然（本殿）と建築（拝殿）の融合を図った。自然を引き立てる建築を目指しながら、その建築によって日本人の自然を尊ぶ精神をも引き立てるよう提案した。
28.つむぐグスク	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州)，pp.172-173	吉野有里恵，岡﨑甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 かつて御嶽が聖所として「腰当て」の空間を象徴する祈りの場であったように、急激な観光業の発展による市街化現象によって信仰空間との関わりの薄れた市街地と神の森を繋ぐグスクを計画した。神が宿る自然を身近に感じ、市街地と神の森を緩やかに繋ぎ、人々に石垣島の“ 姿”を森から立ち上がったようなグスクによって、肌

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				で体感する空間を提案した。
29.帰納論理プログラミングを用いた路地の街並みにおける長屋のファサードの空間構成の特徴―大阪市空堀地区を対象として―	共	2016年8月	2016年度日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)都市計画，pp.871-872	田中佑奈,岡崎甚幸，杉浦徳利 大阪市空堀地区を対象に、帰納論理プログラミング(ILP)を用い、植栽やしつらえ等の“表出要素”を含めた各建物の固有のファサードによる路地の街並みの空間構成の特徴の分析手法の構築を目的とする。路地に面する各建物のファサードの3次元モデルを作成し、構成要素の種類及び構成要素間の幾何学的関係について、一階述語論理に基づく記述をILPにより分析した結果、空間構成の特徴を抽出した。
30.仏教寺院の発展の類型：中央アジアおよび新疆ウィグル自治区を対象として	共	2016年08月	2016年度日本建築学会大会（九州）学術講演会: pp. 703-704	中村優花，岡崎甚幸 中央アジアにおける地上寺院、石窟寺院それぞれの空間構成について概観し、空間構成を分類した上で、3D図式を用いて、空間構成の発展の類型を示した。
31.Features of the Earth in the Qur'an: Focusing on the Relationship between God and Human Beings	共	2016年07月16日	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan.	山口 彩，岡崎甚幸 学術論文の項を参照
32.Study of the Thermal Bath with in Hisham's Palace by Utilizing a Reconstructed Model and a Simulation of the Internal Space（Proceedings，査読付）	共	2016年07月16日	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan.	川崎祐華，中村優花，山口 彩，岡崎甚幸 学術論文の項を参照
33.Features of the Earth in the Q ur'an: Focusing on the Relati onship between God and Human Beings（Proceedings，査読付	共	2016年07月16日	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan.	山口 彩，岡崎甚幸 学術論文の項を参照
34.装飾とカーテンウォールによる建築	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東)，pp.254-255	谷なつき，岡崎甚幸，天畠秀秋，鈴木利友 F.L.ライトの用いた寸法体系を研究し、独自の寸法体系、装飾を提案した。それに基づき、現代建築の象徴といえるガラスのカーテンウォールと古代、近代建築の象徴といえる装飾を融合させることによって、現代における新たな装飾建築を提案した。
35.海に浮かぶ集落	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東)，pp.130-131	羽間冬香，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 浮体構造物の中でも居住性が高く、環境への負荷が小さく、津波などの災害にも強いとされるセミサブ型浮体構造物を用いた海上都市を考案した。荷重と浮力の釣り合い、制的安定性、Heave固有周期といった成立条件を検討のうえ、外側、内側ともにセットバックした海上都市を設計している
36.水の廻る町	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表	鈴木絢美，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 伝統的な庭園様式にみられる水の表現方法のうち、西洋のカスケー

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			梗概集(関東), pp.72-73	ドや日本における滝といった、時間軸をもつ要素を都市の中に用いることにより、日常の中に非日常な空間を構成した。本設計は４棟の集合住宅によって囲まれており、一つの町を構成している。
37.カテナリーの教会	共	2015年09月	日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集(関東), pp.50-51	今治こみ加，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 カテナリー曲線とは、ロープや電線などの両端を持って垂らした時にできる曲線である。カテナリー曲線を用いて曲面を構成することにより、聖母マリアの優しさや安心感を感じられ、心穏やかに安らげる空間を設計した。
38.自然光を導き入れる展示空間	共	2015年09月	日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集(関東), pp.234-235	今川泰江，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋 訪れるたびに異なる表情をみせ、変化し続ける展示空間として、自然光のみによって作品を照らす博物館を設計した。屋外の光の変化が屋内にそのまま反映されるのではなく、光が床や壁に一度当たることによって、その時しか出会うことができない空間を各展示室に作り出す。
39.コーラ修道院の内ナルテクスにおけるキリスト教絵画による空間構成	共	2014年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集（近畿），pp.799～800	猪股圭佑，岡崎甚幸 コーラ修道院の内ナルテクスにおける壁画の主題及び配置による空間構成の分析を行い、それらによって形成されている建築空間の意味を明らかにすることを目的として、コーラ修道院の内ナルテクスの内部合成写真を作成し、壁面装飾による空間構成を分析した。 コーラ修道院の内ナルテクスにおいて、南ドームにおける「神としてのキリスト」及び北ドームにおける「人としてのキリスト」の可視化により、「キリストの両性」を表現する建築空間が壁画の配置によって形成されていたと考えられる。
40.海上の楽園 -浮体式セミサブ型 構造を用いたリゾートホテル-	共	2014年09月	日本建築学会大会 建築 デザイン発表梗概集(近 畿), pp.280-281	吉村裕子，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋
41.コミュニティ衰退における社会的 変遷及び生活環境的要因 -堺市 東浅香山地域の実態調査-	共	2014年09月	日本建築学会大会 学術 講演梗概集(近畿)都市計画, pp.431-432	田中佑奈，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋
42.広重の浮世絵の風景画に見られる俯瞰景の投影法による分類	共	2014年09月	日本建築学会大会 学術 講演梗概集(近畿), 都市計画, pp.547-548	本田くるみ，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋
43.都市の洞窟	共	2014年09月	日本建築学会大会 建築 デザイン発表梗概集(近畿), pp.278-279	村上友理子，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋
44.藤原京、平城京、平安京の囲繞空間の山並みと水系	共	2013年08月30日	2013年度 日本建築学会大会 学術講演梗概集	天畠秀秋，岡崎甚幸 藤原京、平城京、平安京の囲繞空間を対象として、3次元地形モデルを用いた山並みと水系の分析により、以下が明らかになった。 ① 藤原京、平城京、平安京の囲繞空間は、いずれも以下の異なる特徴をもっていた。藤原京は南側が高く北側が低く、北側の耳成山が独立した山で北西と北東は開けており、水を集めるために有効な地形ではない。平城京は南側に比べて北側が高いが、北側の奈良山の標高が低いために後ろ三方が囲われているとは言えず、水を集めるために有効な地形ではない。平安京は後ろ三方が高い山に囲われているため、南側に比べて北側が高く、南側に水を集めることができる地形である。 ②畿内全域から見ると、平安京の囲繞空間である京都盆地は、藤原京、平城京の囲繞空間である奈良盆地に比べて、流れ込む水の流域面積が約9倍であり、また地下水賦存量も多かった。
45.コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の意味	共	2013年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集（北海道）	猪股圭佑，岡崎甚幸 コーラ修道院における山の意味を明らかにすることを目的として、建築空間の断面構成とキリスト教絵画における山との関係の分析及び考察を行った。コーラ修道院の内ナルテクス及びパレクリシオンのドームにはイコンが描かれ、その下のペンデンティブやルネット

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				には神の世界と地上の世界の関わりを表現する図像、天使、聖母マリアの象徴である梯子及び契約の箱、そして山が描かれ、さらにその下には聖母マリアの執り成しをもってキリストによる救済を願う図像や献堂者達の墓室という断面構成になっている。コーラ修道院の建築空間においても、山は現実の世界と神の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていたと考えられる。
46.クルアーンにみられるイスラームの自然観に関する研究	共	2013年08月	2013年度 日本建築学会大会 学術講演梗概集	山口 彩，櫻井美里，天畠秀秋，岡崎甚幸
47.新国会議事堂	共	2013年08月	日本建築学会大会 建築 デザイン発表梗概集(北海道) pp.192-193	北岡敦子，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋
48.平城京の囲繞空間と風水思想	共	2012年09月	2012年度 日本建築学会大会 学術講演梗概集	天畠 秀秋、岡崎 甚幸 3次元地形モデルを用いることにより、平城京の囲繞空間の風景と風水思想における解釈の関係 を考察して以下のことを明らかにした。(1)第一次大極殿から南方を見た風景は三方が山に囲われているが、北側の奈良山は低い丘である。(2)朱雀大路の 基準とされる越智岡丘陵の選定根拠が、風景の観点からは曖昧である。(3)十字軸の基準が周辺の山との関係から見い出せない。(4)平城京は、四神相応であるとされるが、奈良盆地全体で見ると、南側が高く風水思想の理想的な囲繞空間の特徴と一致しない。
49.オシオス･ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型－人物との関係に着目して－	共	2012年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(東海)	猪股圭佑，岡崎甚幸 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画を分析対象とし、山の類型を抽出して、それら類型の意味を明らかにし、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の類型と比較考察した。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」という2種類の山の類型が抽出された。オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画において、コーラ修道院の場合と同様に、山は特別な意味を持つ、現実の世界と神の世界を繋ぐ場所だったと考えられる。
50.子どもの発達と遊び空間	共	2012年09月	2012年度 日本建築学会大会 学術講演梗概集(建築デザイン)	西田祥子，岡崎甚幸，鈴木利友，天畠秀秋
51.CEZANNEの表現手法を用いた空間 設計	共	2012年09月	日本建築学会大会 建築 デザイン発表梗概集(東海) pp. 214-215	伊勢文音，鈴木利友，天畠秀秋，岡崎甚幸
52.MOUNTAINS PAINTED IN CHRISTIAN PAINTINGS IN THE MONASTERY OF HOSIOS LOUKAS（査読付）	共	2012年07月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012	猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦 オシオス･ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型を抽出することを目的として、分析及び考察を行った。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物が入り込む山」という3種類の山の類型が抽出された。
53.RELATIONSHIPS BETWEEN FENG-SHUI AND LANDSCAPES OF CHANGAN AND HEIJO-KYO	共	2012年07月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 2nd International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 14-	Hideaki Tembata, Shigeyuki Okazaki This paper studies the relationships between the landscapes of Seoul and Kaesong and their interpretations based on Feng-Shui. In this study we consider the visual relationships between actual landscapes and interpretations based on Feng-Shui using a three-dimensional terrain model. Both Seoul and Kaesong have visually enclosed spaces.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
54.Typical Mountain Image of Tur kish Students Based on Landsca pe Montage Technique: Through Comparison with Japanese Stude nts(査読付)	共	2012年07月	16, 2012 Archi-Cultural Transl ations through the Si lk Road, 2nd Internat ional Conference, Muk ogawa Women’s Univer sity, Nishinomiya, Ja pan, July 14-16, 2012 , Proceedings, pp105- 110.	Yanagisawa, K., Okazaki, S., & Dundar, M.
55.Mountains Painted in Christian Paintings in the Chora Church (査読付)	共	2011年03月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 1st International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 16 -18, 2011, Proceedings, pp67-72.	I nomata, K., Okazaki, S., & Yanagisawa, K.
56.Types of Rivers with Respect t o Frame, Drawn by Schizophreni c Patients Based on “Landscap e Montage Technique” : Similar ity to Traditional Japanese Sp ace(査読付)	共	2011年03月	Archi-Cultural Translations through the Silk Road, 1st International Conference, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey, March 16 -18, 2011, Proceedings, pp117-122	Yanagisawa, K., & Okazaki, S.
57.統合失調症者の居住空間構成法	共	2008年10月	日本箱庭療法学会第22 回大会発表論文集, pp111-112	柳沢和彦，岡崎甚幸
58.統合失調症者の風景構成法における川の類型	共	2008年09月	日本建築学会大会学術 講演梗概集(中国)F-2 ,pp575 -576	柳沢和彦，岡崎甚幸
59.京都の都市景観と現代建築のデザイン	単	2008年03月		
60.甲子園会館（旧甲子園ホテル）における歩行時の注視行動の特性	共	2007年08月		鈴木利友，岡崎甚幸
61.精神病者の風景構成法における川 の類型 -健常者の風景構成法との 比較より-	共	2005年09月	日本建築学会大会学術 講演梗概集(近畿)E-1 , pp1173-1174	柳沢和彦，岡崎甚幸
62.非建築系学生による空間構成過程の類型	共	2005年09月		杉浦徳利，岡崎甚幸

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
－帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空間構成過程の研究 その４－				
63.キリスト教絵画を通してみた西欧における自然描写の変遷	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)	猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦 西欧の自然描写の変遷を明らかにすることを目的として、キリスト教絵画における背景表現の分析を行った。分析を通して、１３世紀末から１５世紀前半を過渡期とする、黄金地を特徴とした背景表現から自然描写を特徴とした背景表現へ、という変化があることがわかった。
64.キリスト教絵画を通してみた西欧における自然描写の変遷	共	2004年08月		猪股圭佑，岡崎甚幸，柳沢和彦
65.視覚的特徴から見たソウルの坐向論議 －CG地形モデルを用いた風水空間の視覚的特徴に関する研究 その2－	共	2004年08月		鏡千恵子，岡崎甚幸，柳沢和彦，天畠秀秋
66.ソウルの囲繞空間の視覚的特徴 －CG地形モデルを用いた風水空間の視覚的特徴に関する研究 その1－	共	2004年08月		天畠秀秋，岡崎甚幸，柳沢和彦，鏡千恵子
67.建築系学生による空間構成過程の類型 －帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空間構成過程の研究 その3	共	2004年08月		杉浦徳利，岡崎甚幸
68.駅前市街地における注視対象と注視行動 －街路における探索歩行時の注視に関する研究 その２－	共	2004年08月		池應れいか，岡崎甚幸，鈴木利友
69.駅前市街地における仮設サインとアイカメラをもちいた探索歩行実験 －街路における探索歩行時の注視に関する研究 その１－	共	2004年08月		鈴木利友，岡崎甚幸，池應れいか
70.建築系および非建築系グループの空間構成過程の対照性 －帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空間構成過程の研究 その２－	共	2003年09月		杉浦徳利・岡崎甚幸・横田隆志 Progolにより抽出された、建築系および非建築系グループの空間構成過程の分類規則を比較し、その対照性を明らかにした。また、学習による情報の圧縮率および予測分類精度を比較した結果、建築系グループでは多くの局面でパターンが発生するが、パターンが多様なため予測分類し難いこと、非建築系グループではパターンが発生する局面が少ないが、パターンのバリエーションが少ないため比較的予測分類し易いことが分かった。
71.建築系および非建築系グループに固有な空間構成過程の特徴 －帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による	共	2003年09月		横田隆志・岡崎甚幸・杉浦徳利 建築デザインの教育を受けた建築系学生14人、および建築デザインの教育を受けていない非建築系学生14人に対して、居住空間構成法の実験を行った。そして帰納論理プログラミングの一つであるProgolを用いて、実験で得られた空間構成過程を分析することによって、建築系および非建築系グループにそれぞれ固有な諸特徴を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
空間構成過程の研究　その１－				導いた。
72.社寺参詣曼荼羅における山の類型化　－社寺参詣曼荼羅における自然要素の描画に関する研究－	共	2003年09月		上野達哉・柳沢和彦・岡崎甚幸 社寺参詣曼荼羅を、最も頻出する自然要素である山の描かれ方に着目して分析した。その結果「近景の山」「遠景の山」「近景の山の上に遠景の山が乗るもの」「山型表現の山」という４種の山の類型を抽出した。また、川の分類とあわせて分析した結果、遠景の山に縦の川、近景の山に横の川という、社寺参詣曼荼羅の２つの特徴的な風景構成を見い出した。
73.川別に見た山の構成の発達的特徴　－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について　その３－	共	2003年09月		猪股圭佑・柳沢和彦・原祥子・岡崎甚幸 風景構成法における山の構成を、川の類型別に分析した。その結果、水平の川では「川にのる山」が多く、斜め、垂直、先細りの川では「上方の山」が多くなること、斜め、垂直の川では「下枠にのる山」が若干増加する傾向にあり、「川にのる山」も「下枠にのる山」も基本的には「基底線にのる山」とみなすことができることが分かった。また山の構成の発達的変容が、川の構成の発達的変容と対応していることが明らかとなった。
74.学年別に見た山の構成の発達的特徴　－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について　その２－	共	2003年09月		原祥子・柳沢和彦・猪股圭佑・岡崎甚幸 風景構成法における山の構成の発達的特徴を、「枠」と山との関係、山と山との関係に着目して分析した。その結果、幼稚園児や小学校低学年においては「下枠にのる山」「川にのる山」がより多く見られるが、学年が進むにつれてそれら両者は減少し、中学生以降では「上方の山」が９割以上を占めるという、山の構成に関する発達的な変容の様子が明らかになった。
75.箱庭療法と風景構成法と居住空間構成法の位置づけ　－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について　その１－	共	2003年09月		柳沢和彦・猪股圭佑・原祥子・岡崎甚幸 箱庭療法、およびこれをヒントに考案された居住空間構成法や風景構成法の位置づけに関する考察を行い、これまで行ってきた空間図式に関する一連研究の位置づけを確認しようとした。その結果、これらの技法による作品は、おおよそ、居住空間構成法、風景構成法、箱庭療法の順に、構成的特徴が優位なものから主題的特徴が優位なものへと移っていくことが明らかになった。
76.集団の探索行動における会話の類型化　－情報交換を伴う探索行動に関する研究　その６－	共	2003年09月		鈴木利友・岡崎甚幸・天畠秀秋 集団の探索行動実験において多くの被験者が交わす会話は、質問と回答、主語、場の記号、格、述語によって構成される限られた組み合わせに類似化できることを示した。また、その使われ方は話し手の行動や状態と密接に関係しつつ変化することなどを明らかにした。
77.集団の探索行動における会話の分類　－情報交換を伴う探索行動に関する研究　その５－	共	2003年09月		天畠秀秋・鈴木利友・岡崎甚幸 仮想迷路における８人の集団による探索行動実験で各被験者が交わした膨大な会話を、質問と回答、および主語や述語の種類に着目して分類した。また空間を言語化し、述語を具体化する言葉を場の記号と定義し、その種類を調査した。その結果、話し手と聞き手の身体が同じ空間にいる状況では、互いの身体の位置関係に依存する表現が多く用いられることを明らかにした。
78.仮想迷路における集団の探索行動実験で見られた会話の分析	共	2003年05月		鈴木利友・岡崎甚幸 マルチユーザ型仮想現実空間を用いて、８人の集団が目的地を協力し合いながら探索する実験を行った。そこで見られた膨大な会話を、主語、場の記号、格および述語によって構成されるものととらえて分析した。その結果、本実験のように話し手と聞き手が同じ空間を共有する状況では、互いの身体の位置関係に依存する場の記号が会話に多く現れること、多くの者が共通して用いる会話は限られた数にパターン化できることを明らかにした。
79.広重の風景版画の川による構成分類　－幼稚園児から大学生までの風景構成法との比較から－	共	2002年09月		岡崎甚幸・柳沢和彦 本論の目的は、風景構成法で得られた「枠」に対する川の類型化の知見に基づきながら、広重の風景版画において「枠」に対する川の類型を抽出し、その空間構成の特徴を明らかにすることである。分析の結果、「彼岸なしの川」「此岸なしの川」「左右の枠を結ぶ川」「下枠と横枠を結ぶ川」「地平線と下枠を結ぶ川」など７種類の川の類型を抽出し、各川毎に広重の空間構成の特徴を明らかにし

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				た。
80.居住空間構成法による空間構成過程の研究　－その２　空間構成過程の類似度に基づく作品のクラスタリング－	共	2002年09月		杉浦徳利・岡崎甚幸・須貝成芳 帰納論理プログラミングにより発見された規則を利用して、居住空間構成法による空間構成過程類をクラスタリングする方法を提案した。この手法を用いて、幼稚園児の空間構成過程をクラスタリングした結果、「壁や間仕切を多用し、比較的多くの道具を規則的に関係づけるグループ」「家具、植物、屋外物を幾何学的に関係付けずに互いに独立して配置するグループ」などの３類型が得られた。
81.居住空間構成法とピアジェ型実験との比較	共	2002年08月		柳沢和彦・岡崎甚幸 本論は、ピアジェ再考の一研究として、幼稚園児の居住空間構成法とピアジェ型実験とを比較し、両者の対応関係を明らかにすることを目的とする。比較の結果、居住空間構成法の方が多様な空間図式を取り出しうることが判明し、基本的にピアジェ型実験は、日常生活に基づく子どもの空間図式の解明には結びつきにくいのではないか、ということが考察された。
82.帰納論理プログラミングを用いた風景画の鑑賞時における注視行動の分析	共	2002年08月		杉浦徳利・岡崎甚幸・守山敦子 アイカメラを装着して、一点透視図法に従った風景画、多視点で表現された風景画、および一点透視図と多視点的な表現を融合した風景画をそれぞれ鑑賞する実験を行った。帰納論理プログラミングを用いて、各風景画に固有な注視行動の規則を抽出した。得られた規則をもとに、注視行動の個人差、注視点の移動距離、サッカードのなす角度という観点から、３つの風景画における注視行動の特徴の関係を整理することが出来た。
83.神社を扱った社寺参詣曼荼羅における自然要素の描画に関する研究　－社寺参詣曼荼羅における川の類型化－	共	2002年08月		上野達哉・岡崎甚幸・柳沢和彦 本論では、神社に関する参詣曼荼羅32幅を対象とし、それらからの中世日本人の空間図式の解明を目的とする。川、山という自然要素の描画の分析から、描かれた川は「縦に流れる川」「横に流れる川」「途切れる川」の３タイプに分けることができた。そして、その類型に基づきながら、絵図にみられる川、山、神社境内による画面構成の特徴を明らかにした。
84.多視点の風景画における注視行動　－アイカメラによる日本の風景画鑑賞時における構図と注視行動の関係に関する研究　その２－	共	2002年08月		呉怡貞・岡崎甚幸・柳沢和彦・守山敦子 「直投影で立面的」「俯瞰的」「斜投影で俯瞰的」という異なる構図的特徴をもつ多視点の日本の風景画を、アイカメラを装着した被験者に鑑賞してもらう。本論では、各風景画における注視行動の特徴を解明し、多視点の風景画では、構図よりも絵画要素の配置の仕方や色調が、注視行動に大きく影響することが明らかとなった。
85.一視点の風景画における注視行動　－アイカメラによる日本の風景画鑑賞時における構図と注視行動の関係に関する研究　その１－	共	2002年08月		守山敦子・岡崎甚幸・柳沢和彦・呉怡貞 「一点に収束する」「一点に収束しない」「一点に収束せず重なりをもつ」という異なる構図的特徴をもつ一視点の日本の風景画を、アイカメラを装着した被験者に鑑賞してもらう。本論では、各風景画における注視行動の特徴を解明し、一視点の風景画では、３種類の構図の違いが注視行動に大きく影響することが明らかとなった。
86.探索行動実験後における地図および風景描画の特徴　－情報交換を伴う探索行動に関する研究　その４－	共	2002年08月		天畠秀秋・鈴木利友・岡崎甚幸 競合協調型の探索行動実験終了後に被験者が描いた地図や風景について考察した。その結果、男性は空間の形状や方向を手がかりにして経路を覚える人が多いのに対し、女性は壁に貼られたサインを手がかりにする人が多く、明らかな性差が認められること、本実験のような迷路空間の場合は、印象に残る風景として、壁に貼られたサインを挙げる人が多いことを明らかにした。
87.８人での探索行動実験の概要および誘導に用いられた言葉　－情報交換を伴う探索行動に関する研究　その３－	共	2002年08月		鈴木利友・岡崎甚幸・天畠秀秋 これまで４人の被験者からなる集団による探索行動実験を行ってきたが、より大人数の集団が経路を探索し、他者を誘導していく際の集団行動を明らかにすることを目指し、８人の被験者からなる集団で実験を行った。吸着誘導は早くゴールを発見した被験者ほど多く用いる傾向があるが、指示誘導はそのような傾向が明確に現れず、むしろ被験者間の個人差が大きいことが分かった。
88.能動的移動と受動的	共	2002年08月		須貝成芳・岡崎甚幸・鈴木利友・猪股圭佑

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
移動における注視行動の比較　－迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究（その２）－				能動的探索歩行では試行を重ねると経路を学習し注視が流動的になるが、受動的移動では経路をよく学習し注視が流動的になる被験者と、経路をあまり学習せず注視が散発的になる被験者が見られた。また能動的探索歩行では頭部や身体よりも先に注視が進行方向へ向くが、受動的移動では、身体や頭部が回転した直後に注視が同じ方向に移動する現象や、身体が回転している間に注視が逆方向に移動する現象が見られた。
89.能動的移動実験と受動的移動実験の方法について　－迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究（その１）－	共	2002年08月		猪股圭佑・須貝成芳・岡崎甚幸・鈴木利友 能動的移動および受動的移動時の注視行動の違いを明らかにするため、アイカメラを装着した被験者が迷路内を探索歩行する実験と、実験者が押す車椅子に乗って迷路内を移動する実験を行った。経路選択を誤った回数および実験後に描画した地図の比較から、能動的に探索歩行を行った被験者の方が、受動的に移動した被験者よりも経路をよりよく学習していることを確認した。
90.飛石に従って歩行した時の注視行動の特性　－茶室露地における飛石歩行の際の注視行動　その２－	共	2002年08月		中村祐記・原祥子・岡崎甚幸・鈴木利友 飛石の歩き方を教示することにより、短時間注視が減少し長時間注視が増加すること、身体側方への注視が減少し身体正面への注視が増加すること、３個先の飛石へと注視が集中すること、植栽への注視が減少し添景物への注視が増加すること、役石ごとに分節化された注視行動によって露地が捉えるようになることが明らかになり、歩行者の注視行動が確実に変化することが示された。
91.茶室露地における飛石歩行実験の方法　－茶室露地における飛石歩行の際の注視行動　その１－	共	2002年08月		原祥子・中村祐記・岡崎甚幸・鈴木利友 歩行者の注視行動の観点から、茶室露地における飛石の規制の影響を解明することを目指した。そのため飛石の正しい歩き方を知らない被験者がアイカメラを装着し、飛石の歩き方を何も教示しない状況で露地を３回歩行し、飛石の歩き方を教示した後で同じ露地を再び３回歩行する実験を行った。その結果、飛石の歩き方を教示することによって、歩行軌跡だけでなく注視行動をも変化することがわかった。
92.廊下及び階段歩行時における有効視野	共	2002年05月		吉岡陽介・岡崎甚幸 日常の生活空間を歩行する時、視野内において有効に活用されている範囲は、歩行者が直面している歩行局面ごとに、固有な方向への異方性を持っていると思われる。この有効活用されている視野範囲の形状を定量的に検証するため、制限視野法を用いた歩行実験を行った。その結果、歩行時における視野範囲は、歩行局面ごとに特定の方向への異方性を持つこと、また歩行全般を通して耳側方向への異方性をもつことが分かった。
93.迷路空間における移動方法と注視行動の関係に関する研究　－能動的探索歩行と車椅子による受動的移動の比較を通して－	共	2002年05月		鈴木利友・須貝成芳・岡崎甚幸 能動的移動および受動的移動時の注視行動の違いを明らかにするため、アイカメラを装着した被験者が迷路内を探索歩行する実験と、実験者が押す車椅子に乗って同じ迷路を移動する実験を行った。その結果、能動的探索歩行では試行を重ねると経路を学習し注視が流動的になるが、受動的移動では経路をよく学習し注視が流動的になる被験者と、経路をあまり学習せず注視が散発的になる被験者が見られることなどが明らかになった。
94.ILPを用いた風景画の鑑賞時における注視行動パターンの発見	共	2002年05月		杉浦徳利・守山敦子・岡崎甚幸 アイカメラを装着して、一点透視図法に従った風景画、および一点透視図と日本独自の多視点的な表現を融合した風景画を鑑賞する実験を行った。帰納論理プログラミングを用いて、実験で得られた注視行動のデータ分析した結果、注視点の移動距離、サッカードのなす角度などの特性において両風景画の注視行動の対照性を導出できた。
95.帰納論理プログラミングを用いた建築空間の構成過程の分析	共	2001年09月		杉浦徳利・岡崎甚幸 建築を専攻する学生および建築とは無関係の学生に対して居住空間構成法の実験を行った。実験で得られた空間構成過程のデータを機能論理プログラミングシステムの一つであるProgolを用いて分析した結果、層状の構成、物体の非隣接による構成、被験者に直交する構成（建築グループ）、被験者に正対する構成、物体の隣接による

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				構成（非建築グループ）等の両グループの空間把握の違いを表すパターンを抽出することができた。
96.風景構成法から見た広重の風景画　－風景構成法による空間図式の研究　その２－	共	2001年09月		柳沢和彦・岡崎甚幸・守山敦子 本論では、広重の風景画の空間構成を、風景構成法の視点から分析・解明することを目的とする。広重の「東海道五十三次」「木曽街道六十九次」「名所江戸百景」のうち、「川」が描かれた計167作品を対象とする。広重の風景画においても「枠」に対して「川」が如何なる形式をとるのかを分析した結果、「此岸なしの川」「下枠と横枠を結ぶ川」「地平線と下枠を結ぶ先細りの川」など10種類の「川」の類型を抽出した。
97.幼稚園児から大学生までの風景構成法の発達的特徴　－風景構成法による空間図式の研究　その１－	共	2001年09月		守山敦子・岡崎甚幸・柳沢和彦 風景構成法による空間図式の解明を目的として、幼稚園児から大学生までの1041名を対象に風景構成法を実施した。そして風景構成法の特徴である「枠づけ」に着目し、最初に描かれる川が「枠」に対して如何なる形式をとるのかを分析した。その結果、15種類の「川」の類型を抽出した。さらにそれらの川の類型に基づいて、空間構成の発達の変容を明らかにした。
98.仮想地下鉄駅舎における注視行動の特性　－現実及び仮想現実地下鉄駅舎での探索歩行における注視と歩行行動　その２－	共	2001年09月		須貝成芳・鈴木利友・中村祐記・岡崎甚幸 仮想地下鉄駅舎における探索歩行時の注視行動を、現実地下鉄駅舎での探索歩行時と比較、考察した。その結果、仮想地下鉄駅舎における探索歩行では、現実地下鉄駅舎と比較して床への注視が多いこと、遮蔽縁付近への斜交い注視が少ないこと、サインへの注視行動が現実空間とは異なること、画面上の注視点は固定しているが画面上の風景が急激に変化することにより相対的に注視対象が変化する現象が生じることが明らかになった。
99.現実及び仮想地下鉄駅舎における探索歩行実験の概要　－現実及び仮想現実地下鉄駅舎での探索歩行における注視と歩行行動　その１－	共	2001年09月		中村祐記・鈴木利友・岡崎甚幸・須貝成芳 現実及び仮想地下鉄駅舎でアイカメラを装着した被験者による探索歩行実験を行った。現実地下鉄駅舎では、被験者は列車を降りてホーム上のサインで出口４を探し、その出口へと向かった。仮想地下鉄駅舎の実験では、被験者はVRMLによって構築した仮想今出川駅舎内で、キーボードを操作することによって同様に歩いた。仮想地下鉄駅舎におけるサインの可読距離を現実地下鉄駅舎と同じにするために、サインの文字の修正を行った。
100.階段下り歩行実験で見られる注視行動の特徴　－階段歩行時の注視行動に関する研究　その３－	共	2001年09月		上野達哉・岡崎甚幸・鈴木利友・呉怡貞 階段下り歩行実験では、階段下り歩行時であるか平面歩行時であるかによる注視行動の違いが明確でない。壁遮蔽縁とその手前に階段が見える場合はシーンや被験者によるばらつきが大きく、床または天井の遮蔽縁と階段が見える場合は注視が垂直方向に往復する。階段が床遮蔽縁の奥に隠されていて見えない場合は注視が床遮蔽縁に集中し、壁遮蔽縁の奥のみに階段が見える場合には壁遮蔽縁、階段下り口への注視が多い。
101.階段上り歩行実験で見られる注視行動の特徴　－階段歩行時の注視行動に関する研究　その２－	共	2001年09月		呉怡貞・岡崎甚幸・鈴木利友・上野達哉 階段上り歩行実験では、階段上り歩行時であるか平面歩行時であるか、次の踊り場が床遮蔽縁で隠されているかどうか、前方に壁遮蔽縁が見えるかどうかによって、注視行動が変化する。また階段上り歩行時は、歩行者が現在階段のどの場所に立っているのかによって、平面歩行時は直進しながら階段に接近するのか、曲がり角を曲がりながら階段に接近するのかによっても、注視行動が変化する。
102.地下鉄駅舎出入口におけるアイカメラを用いた階段歩行実験　－階段歩行時の注視行動に関する研究　その１－	共	2001年09月		鈴木利友・岡崎甚幸・呉怡貞・上野達哉 階段歩行時の注視行動を明らかにするために、アイカメラを装着した被験者が地下鉄駅舎出入口の階段を上る実験と下る実験を行った。そして両実験で見られた注視を、注視場所に着目して分類した。階段歩行時の注視には、遮蔽縁付近への注視である斜交い注視、階段の最下段および最上段のエッジ付近への注視である階段上り口・下り口注視、およびコーナー注視、壁面・階段・床面・天井面注視があることが分かった。
103.各歩行場面における視覚的注意の異方性　－廊下および階段	共	2001年09月		吉岡陽介・一色高志・岡崎甚幸 日常の生活空間を歩行する時に、選択的に活用されている視野範囲を調べるため、制限視野法を用いた歩行実験を行った。その結果、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
歩行時における視覚的注意の広がりに関する研究　その２－				歩行時における視野範囲は、階段や曲がり角など、歩行局面ごとに特定の方向への異方性を持ち、また歩行全般を通して耳側方向への異方性をもつことが分かった。また複数の環境情報を同じ活用範囲で捉えることによって、より安定した歩行が可能になっていることも推察された。
104.視覚的注意の異方性を調べるための制限視野実験方法の開発　－廊下および階段歩行時における視覚的注意の広がりに関する研究　その１－	共	2001年09月		一色高志・吉岡陽介・岡崎甚幸 制限視野マスクを開発して歩行実験を行い、歩行時における周辺視の役割の解明を試みてきた。しかし周辺視野の範囲は非常に広く、その全域が常に一様な役割を持っているわけではない。人間が日常の生活空間を歩行する際、環境に対して向けられる視覚的注意の広がりは上下左右に異方性をもっていると推察される。そこで制限視野マスクを改良し、歩行局面ごとの視覚的注意の異方性を特定するための実験方法を確立した。
105.風景構成法の川による構成分類　－幼稚園児・小学生・大学生の作品による空間論的検討－	共	2000年10月		岡崎甚幸・柳沢和彦 本論では、幼稚園児、小学生、大学生の風景構成法の作品について、特に「川」の類型を基準として分類を行った。そして、そこで得られた空間構成の基準が、日本の伝統的な絵画や庭の構成、セザンヌなどの現代絵画の構成、山水画の構成など、言わゆる「非透視図」構成と類似することを指摘し、それらの意味についての考察を行った。
106.垂直および斜めの川による構成　－小学生の風景構成法について　その２－	共	2000年09月		柳沢和彦・岡崎甚幸・高橋ありす 小学生の風景構成法では水平の川による構成の後に垂直の川や斜めの川が出現する。本論は垂直及び斜めの川について考察するもので「左右の枠を結ぶ斜めの川」「隅の川」「途切れた川」「垂直に立つ川」「上下の枠を結ぶ斜めの川」「上枠と横枠を結ぶ川」「下枠と横枠を結ぶ川」「下枠と横枠を結ぶ先細りの川」「山から流れ出す川」という９つの類型を抽出し、その際の作品構成の特徴を明らかにした。
107.羅列および水平の川による構成　－小学生の風景構成法について　その１－	共	2000年09月		高橋ありす・岡崎甚幸・柳沢和彦 小学生に風景構成法を実施し、「川」の類型及び作品構成の全体的な特徴を考察した。本論は、「羅列」及び「水平の川」による構成を報告するものである。「羅列」では、アイテム間に関係が見られずほぼ教示順にアイテムが羅列される。「此岸なしの川」は枠が川の下縁になっているものである。断面的な表現、上下で奥行きが感じられるような層的構造などが見られる。「枠から離れた水平の川」では、層的構造が明確になる。
108.廊下及び階段歩行時における行動特性に関する研究　－制限視野下での行動特性に関する研究　その２－	共	2000年09月		吉岡陽介・岡崎甚幸・黒岩将人・一色高志 通常視野実験と制限視野実験の結果の比較を行った。制限視野下では、通常視野下と比較して、階段下り歩行時の平均歩行速度が遅くなること、壁と床の境界付近を多く注視するようになること、足や手がアンダーリーチングになること、角を曲がる時大回りすることなどが明らかになった。以上から周辺視には、身体と環境との間の正確な距離や位置関係の把握を助ける役割があることが分かった。
109.歩行行動特性を調べるための実験方法及び記述法の開発　－制限視野下での行動特性に関する研究　その１－	共	2000年09月		一色高志・岡崎甚幸・黒岩将人・吉岡陽介 アイカメラを装着して廊下および階段を歩く通常視野実験と、新しく開発した制限視野マスクを装着して同じ場所を歩く制限視野実験を行った。制限視野マスクは被験者の両眼の前に開口があり、前方の風景を小型カメラによって撮影する。このマスクによって、被験者の視野を制限した状態での歩行実験が可能になった。また、通常視野実験における注視点の移動と、制限視野実験における視野の移動を記述し、比較する方法も開発した。
110.迷路内探索歩行における注視行動モデルの研究	共	2000年09月		今村元信・岡崎甚幸・増田博雄・中村祐記 アイカメラを装着した被験者による迷路内探索歩行実験の結果から明らかになった、環境や身体運動と注視行動の関係に基づき、VRML及びJAVA言語を用いて注視行動に関するシミュレーションモデルを構築した。シミュレーションの結果を探索歩行実験の結果と比較することによって、このシミュレーションモデルが、実験で観察できた多くの注視行動特性を再現できることを確認した。
111.仮想迷路探索行動実	共	2000年09月		鈴木利友・岡崎甚幸・前田昌亮・伊藤明宏

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
験でみられる行動 －情報交換を伴う探索行動に関する研究 その２－				情報交換を伴う探索行動実験中にみられる行動を、その歩行行動や会話に着目して分類した。各被験者の行動は、目的地発見前と発見後、競合協調型の実験と協調型の実験で違いがあるほか、個人差も大きい。目的地発見前は環境や情報交換、発見後は他者との位置関係、内的要因によって行動が遷移することが多い。目的地共同探索行動を多くとる被験者はより積極的に情報交換を行い、実験後に迷路の地図をより正確に描画できる。
112.ネットワークを用いた仮想迷路探索行動実験 －情報交換を伴う探索行動に関する研究 その１－	共	2000年09月		前田昌亮・鈴木利友・岡崎甚幸・伊藤明宏 他の歩行者との情報交換が探索歩行に果たす役割を実証的に解明することを目指し、仮想現実空間内で複数の歩行者が自由に情報交換しながら探索歩行可能なFreeWalk-VRMLを開発し、実験を行った。実験は、４人の同一被験者群に対し、２人ずつが組になり他の組と競争して目的地を探索する競合協調型の実験と、４人の被験者が協調して目的地を探索する協調型の探索歩行実験を行った。
113.居住空間構成法による空間構成過程の研究 －その１ 空間構成過程の記述法と規則の抽出方法－	共	2000年09月		須貝成芳・岡崎甚幸・杉浦徳利 帰納論理プログラミングの一種であるprogolを用いて、居住空間構成法による空間構成過程における道具配置の規則を抽出するための手法を提案した。道具を配置する行為を道具の種類、角度、道具が配置された時期、位置、道具間の幾何学的関係、道具の種類ならびに幾何学的関係の具体－抽象関係により、空間構成過程を定式化した。これにより、特徴的な形態が生成される過程を表す道具配置の規則を抽出可能にした。
114.協調的情報交換による知識共有プロセス －仮想迷路空間における情報交換を伴う探索歩行に関する研究 その２－	共	1999年12月		伊藤明宏・鈴木利友・増田博雄・黒岩将人・岡崎甚幸 各被験者が最適と考えるゴールに到達するため協調的に情報交換を行い、合意を形成するプロセスを明らかにするため、属性が異なる複数のゴールがある仮想迷路空間で、３人の被験者による探索歩行実験を行った。その結果、協調行動を生じやすくするには、ゴールの選択が容易であることが必要で、そのためには環境条件が単純であること、環境情報を他者に容易に伝えられること、リーダーが存在することが有効であることが分かった。
115.探索歩行における協調行動の分析 －仮想迷路空間における情報交換を伴う探索歩行に関する研究 その１－	共	1999年12月		鈴木利友・伊藤明宏・増田博雄・黒岩将人・柳沢和彦・岡崎甚幸 複数の被験者が同時に探索歩行が可能なマルチユーザ型システムを構築した。そして被験者３人のアバタが同じ場所からスタートし、同じゴールに集合する実験を行った。その結果、被験者どうしの情報交換は十字路で行われることが多いこと、仮想現実空間内で相手の表情が確認できないシステムでは、アバタと被験者との対応関係の確認を目的とした情報交換が発生することなどが明らかになった。
116.探索歩行時における注視と歩行行動の特性に基づくシミュレーションモデルに関する研究	共	1999年12月		増田博雄・北濱亨・鈴木利友・黒岩将人・柳沢和彦・岡崎甚幸 実験用迷路での探索歩行実験における注視と歩行の関係を分析し、VRML及びJAVA言語を用いてシミュレーションモデルを構築した。このシミュレーションモデルを実験用迷路に適用し、被験者の注視行動が再現できていることを示した。またこのモデルを別の巨大迷路にも適用し、そこで生じる注視行動の多くの部分を再現できていることを示すとともに、再現できなかった行動についてモデルの改良を行った。
117.廊下及び階段における制限視野歩行実験による行動特性 －アイカメラを用いた通常視野歩行実験との比較を通して－	共	1999年12月		黒岩将人・鈴木利友・増田博雄・柳沢和彦・岡崎甚幸 アイカメラを装着して廊下および階段を歩く通常視野実験と、周辺視野を制限するマスクを装着して同じ場所を歩く制限視野実験の結果の比較を行った。その結果、制限視野下では、通常視野下と比較して、階段下り歩行時の所要時間が最も増加すること、視線が下向きになり床と壁の境界付近を捉えるようになること、曲がり角で大回りをすること、アンダーリーチングになること、階段上り歩行時に足を擦らせて歩くことなどが分かった。
118.居住空間構成法について	共	1999年10月		岡崎甚幸・柳沢和彦 これまでに我々は、居住空間構成法という技法を用いて、様々な被験者に理想の居住空間の模型を制作してもらった。その数は、精神病者44例（分裂病者30例）、小学生22例、知的障害児60例、幼稚園児69例である。本論では、それらの代表的な事例を報告するととも

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				に、居住空間構成法という方法論の可能性について考察を行った。
119.仮想および現実地下鉄駅舎における注視行動の比較　－地下鉄駅舎における探索歩行に関する研究　その３－	共	1999年09月		鈴木利友・中村真悟・徳永貴士・伊藤明宏・岡崎甚幸 仮想地下鉄駅舎における探索歩行実験中の注視行動について、現実の地下鉄駅舎で同様に実施した実験結果との比較を行った。仮想地下鉄駅舎における平均注視時間は、現実の地下鉄駅舎の約1.7倍であり、このうちサインを見ているときのみの平均注視時間を比較すると約1.3倍である。誘導サインに対する平均注視時間は大きな差がないが、記名サインに対する平均注視時間は仮想地下鉄駅舎の方が大きい。
120.仮想地下鉄駅舎内での探索歩行における注視と歩行行動　－地下鉄駅舎における探索歩行に関する研究　その２－	共	1999年09月		中村真悟・伊藤明宏・鈴木利友・徳永貴士・岡崎甚幸 コンピュータによって構築した仮想地下鉄駅舎における探索歩行時の注視行動と歩行行動、さらに両者の関係を明らかにする。注視行動はアイカメラで調査し、歩行行動は自動的に記録できるようにし、この両者を解析する。本論では、降車直後、新しい空間への進入、階段の発見、階段への進行、階段への進入、Ｕターンといった、特徴的な場面での注視点の動きと歩行軌跡の特性について考察した。
121.地下鉄駅舎の特徴的な場面における注視と歩行行動　－地下鉄駅舎における探索歩行に関する研究　その１－	共	1999年09月		徳永貴士・中村真悟・伊藤明宏・鈴木利友・岡崎甚幸 日常生活空間の一例として、京都市地下鉄烏丸線と東西線の駅舎で探索歩行実験を行い、アイカメラとビデオカメラにより歩行者の注視、頭、身体の動きを録画した。そしてこれらの映像を用いて注視行動解析図を作成し詳細に分析した。本論では地下鉄駅舎における探索歩行に特徴的な場面として、広い空間の探索や、サインへの注視を取り上げ、これらの場面における注視、頭の動きや歩行軌跡について考察を行った。
122.部分的構成から全体的構成への段階　－幼稚園児の風景構成法について　その３－	共	1999年09月		高橋ありす・岡崎甚幸・柳沢和彦・阿部麻衣子 本論では幼稚園児の風景構成法の四段階のうち、後半の「部分的構成」「全体的構成」の二つについて報告する。「部分的構成」段階では、表現様式と空間関係がともに構造化されている。しかし表現様式では未だ基底線が見られない。空間関係は大景要素あるいは中小景要素の関係付けである。「全体的構成」段階での表現様式では基底線が描かれ、空間関係は大中小景要素相互の関係付けとなる。
123.原初的から構成的萌芽への段階　－幼稚園児の風景構成法について　その２－	共	1999年09月		阿部麻衣子・岡崎甚幸・柳沢和彦・高橋ありす 幼稚園児の風景構成法は四つの構成段階に分けることができる。本論ではその中で、前半の「原初的」「構成的萌芽」の二つの段階について報告する。「原初的」段階は居住空間構成法作品における「原初的」段階に相当し、スクリブルや円を中心とする。「構成的萌芽」段階は居住空間構成法の「場の発生」段階に相当し、四角や三角が中心となる。
124.描画考察に基づく表現様式と空間関係に関する考察　－幼稚園児の風景構成法について　その１－	共	1999年09月		柳沢和彦・岡崎甚幸・高橋ありす・阿部麻衣子 本論では幼稚園児の風景構成法に見られた表現様式と空間関係の特徴を明らかにする。表現様式の主な特徴は三つに分けられる。「構造化前」ではスクリブルと円が、「構造的萌芽」ではオタマジャクシと四角や三角が、「構造化」では組立画や基底線などがある。空間関係の主な特徴は二つに分けられる。「構造化前」ではならべ描きが、「構造化」では大景要素或いは中小景要素の関係付け、そして大中小景要素相互の関係付けがある。
125.分裂病者の居住空間構成法による空間構成過程から規則を抽出するシステム	共	1999年09月		杉浦徳利・岡崎甚幸・柳沢和彦・穂積輝明 分裂病患者を対象として居住空間構成法の実験を行い、完成作品が直感的に似ていると思われる２つの作品の空間構成過程から、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミングを用いて、道具の配置に関する規則を抽出した。その結果、人間が直感的に感じる作品の特徴に相当する規則を得ることができた。さらに、直感的な洞察からは分からない潜在的な相違点も規則から読みとることができた。
126.地下鉄駅舎内の探索歩行における注視対象・視点移動・頭部運動	共	1999年06月		伊藤明宏・徳永貴士・鈴木利友・岡崎甚幸 地下鉄駅舎でアイカメラを使った探索歩行実験を行い、注視行動解析図を用いて膨大なデータの体系的記述を行った。そして、従来行った屋内迷路での探索歩行実験と比較しながら考察した。その結

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				果、屋内迷路で見出した視線や頭の移動形式は地下鉄駅舎でも見られること、サインへの注視や斜交い注視は注視時間が長くなること、壁以外によって構成されるエッジに対しても斜交い注視は生じることなどが明らかになった。
127.仮想迷路空間における探索歩行時の所要時間・注視回数・注視時間	共	1999年06月		黒岩将人・中村真悟・伊藤明宏・鈴木利友・増田博雄・岡崎甚幸 アイカメラを用いて仮想迷路空間内の探索歩行実験を行い、所要時間、注視回数、注視時間を調査し、現実迷路空間での行動特性と比較、考察した。現実迷路と同様に、仮想迷路でも試行を重ねるに従って所要時間や注視回数は減少し、注視時間は増加した。現実迷路に比べ、各回の所要時間、注視回数、注視時間はいずれも大きくなった。仮想迷路と現実迷路における注視行動の相違点は、身体の操作性と歩行速度の相違によると考えられる。
128.居住空間構成法による作品の制作過程から規則性を抽出するシステム	共	1999年06月		杉浦徳利・穂積輝明・岡崎甚幸・柳沢和彦 人が建築空間をデザインする時、空間構成要素の属性や幾何学的関係に関する暗黙的なパターンを駆使している。本論文では、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミングを用いて、居住空間構成法による空間構成過程における潜在的なパターンを客観的に抽出するシステムを提案した。このシステムにより、人が空間構成過程を観察することにより直感的に感じられる特徴に相当する規則を部分的に抽出することができた。
129.幼稚園児の空間構成と図式の研究　－居住空間構成法と幼稚園児　その３－	共	1998年09月		岡崎甚幸・柳沢和彦・高橋ありす 本論では、居住空間構成法による幼稚園児の模型に見られる特徴的な空間構成とそれらの関係を明らかにし、それから園児たちの心の中にあると思われる図式を解明した。それらは偏在、一様分布、制作者に対面する道具配置、枠の方向に沿った道具配置、原初的な囲い、列状配置、家具による多様な場の構成、囲いの萌芽としての様々な壁の使用、囲い、および廊下のある構成である。
130.壁による不完全囲い以降の空間構成　－居住空間構成法と幼稚園児　その２－	共	1998年09月		高橋ありす・柳沢和彦・岡崎甚幸 本論は、居住空間構成法による幼稚園児の模型の分析から解明された、壁による不完全囲い以降の空間構成について報告するものである。家具による場の発生以降、作品の空間構成はより構造化したものとなり、囲いと家具による場が共存するものや壁によって全体が統括されるものが出てくる。
131.原初的な空間構成から家具と囲い以前の壁による空間構成まで　－居住空間構成法と幼稚園児　その１－	共	1998年09月		柳沢和彦・高橋ありす・岡崎甚幸 居住空間構成法により23人の幼稚園児が延べ38例の幼稚園の模型を制作し、それと同時に幼稚園の絵を描いた。本論は、各模型の分析から解明された、原初的な空間構成から家具と囲い以前の壁による空間構成までを報告するものである。まず機械的で、均質で、幾何学的で、制作者の自己中心的な視点に基づく原初的な空間構成が見られる。さらにそれに続いて、構造化された意味のある場を持つ空間構成が見られるようになる。
132.注視、頭、体の動きの関連性に関する研究　－探索歩行における注視と歩行行動　その２－	共	1998年09月		徳永貴士・北濱亨・中村真悟・田村仁志・岡崎甚幸 迷路内探索歩行時の眼球運動による視線の向き、首の運動による頭の向き、および歩行による体の向きを、アイカメラとビデオカメラを用いて録画した。そしてこれらを注視行動解析図で詳細に記録し、特に相互の関係性に着目して考察した。その結果、視線、頭、体の順に奥の環境に適応していくこと、その傾向は試行を重ねるにつれて顕著になることなどが明らかになった。
133.注視時間と注視距離から見た視線移動形式に関する研究　－探索歩行における注視と歩行行動　その１－	共	1998年09月		中村真悟・北濱亨・徳永貴士・田村仁志・岡崎甚幸 迷路内探索歩行実験において、被験者の眼球運動をアイカメラで、歩行行動をビデオカメラで録画した。そしてこれらを新たに考案した注視行動解析図で詳細に記録、考察した。その結果、視線の移動形式には散発的注視、流動的注視、回転的注視、単発的注視および斜交い注視があることが分かった。さらにその中でも多く見られる散発的注視と流動的注視について、注視時間と注視距離に着目して調べた。
134.迷路内探索歩行における眼球運動と歩行行動に関する研究	共	1998年07月		徳永貴士・北濱亨・中村真悟・田村仁志・岡崎甚幸 迷路内探索歩行時の眼球運動による視線の向き、首の運動による頭の向き、および歩行による体の向きを、アイカメラとビデオカメラ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
その２　注視および身体の動きの基本的特性に関する研究				を用いて録画し、これらを注視行動解析図で詳細に記録、考察した。その結果、試行を重ねるにつれて、体の向きを基準とした視線や頭の振れ幅は小さくなること、頭の向きは変曲点が少なくなり滑らかに動くようになることなどが明らかになった。
135.迷路内探索歩行における眼球運動と歩行行動に関する研究　その１　視線移動形式に関する研究	共	1998年07月		中村真悟・北濱亨・徳永貴士・田村仁志・岡崎甚幸 迷路内探索歩行実験において、被験者の眼球運動をアイカメラで、歩行行動をビデオカメラで録画した。そしてこれらを新たに考案した注視行動解析図で詳細に記録し、考察した。その結果、視線の移動形式には散発的注視、流動的注視、回転的注視、単発的注視および斜交い注視があることが分かった。また経路を学習するにつれて、散発的注視が減少し流動的注視が増加することなども分かった。
136.図式の発達段階における部屋概念の発生（居住空間構成法と幼児　その３）	共	1997年09月		菊池憲一・難波美絵・柳沢和彦・岡崎甚幸 本論は、居住空間構成法を用いて見出した幼児の図式の発達における第３段階を報告するものである。第２段階である「室内外空間の区別の発生」の階段から更に発達すると、今度は室内を中心にして徐々に空間が分化されていくようになる。そして、より明確な機能をもった「部屋」が現れ、それを表現するために壁を間仕切り的に使うようになり、囲われた空間が発生していく。
137.図式の発達段階における室内外空間の区別の発生（居住空間構成法と幼児　その２）	共	1997年09月		柳沢和彦・菊池憲一・難波美絵・岡崎甚幸 本論は、居住空間構成法を用いて見出した幼児の図式の発達における第二段階を報告するものである。実験の結果、「原初的図式」の段階に続いて「室内外空間の区別の発生」の段階が見られた。それはさらに、衝立的な壁を並べる「囲いの発生」の段階と、室内を表す囲いが閉じた形となる「完全囲い」の段階に分かれる。描画は四角の囲いが描かれ、包含関係が各段階に対応して表現された。
138.発達段階における原初的図式（居住空間構成法と幼児　その１）	共	1997年09月		難波美絵・菊池憲一・柳沢和彦・岡崎甚幸 居住空間構成法により幼児に幼稚園をつくってもらい、その後、幼稚園の認知地図も描いてもらう。本論では、それによって明らかになった、彼らの内的世界の発達段階における原初的図式について述べる。道具２、３個の間の関係付けで断片的場面を表わすが、場面間の関係付けがない、というのが典型的な原初的図式である。その他に、列状配置、道具間関係希薄、象徴的囲いといった特徴が観察された。
139.探索歩行と眼球運動	共	1997年09月		田村仁志・北濱亨・岡崎甚幸 パソコン上に構築したシミュレータを用い、眼球運動測定装置を装着した被験者が迷路内を探索歩行する実験を行った。その結果、以下のことなどが明らかになった。注視点は新たに現れる風景へと素早く移動する。注視点がゴールの塔にある時間は短く、背景の山に移ることはほとんどない。注視点は壁の境界線付近に停留することが多く、ほとんどの場合横方向に動く。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.上甲子園キャンパス庭園灯のデザイン	共	2017年11月	株式会社朝日エティックとの共同制作	岡崎甚幸，森本順子，猪股圭佑，宇澤善一郎，山口 彩 上甲子園キャンパスに設置する電球型LED照明を使っ たポール型の庭園灯をデザインした。
2.Technical proposal for revitalizing the Eastern Buddha Statue	共	2017年09月28日発表	東京藝術大学と共同	岡崎甚幸，前田耕作，杉浦徳利，山口 彩，宮廻正明，山内和也ほか 2001年に爆破されたバーミヤーン東大仏の再建案を 国際会議The Future of the Bamiyan Buddha statue s(主催: アフガニスタン・イスラム共和国，UNESCO ，東京藝術大学)で日本代表案として発表。東大仏 は復元せず、東大仏より1km離れた台地に、東大仏を 1/3の大きさに縮小したモニュメントや集会広場、博 物館を計画し、技術的な提案も行なった。
3.キセカエハウス　－伝統的住環境 技術を用いた対話のしつらえ－	共	2017年04月～2018年02月	エネマネハウス2017	岡崎甚幸，森本順子，杉浦修史，宇野朋子，猪股圭佑，宇澤善一郎，山口 彩 大学と民間企業等の連携により、先進的な技術や新たな住まい方を提案するZEHのモデル住宅を実際に建築し、住宅の環境・エネルギー

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
				性能の測定・実証や、展示を通じた普及啓発を行うプロジェクト。居住者が、季節や毎日の天候、ライフスタイルに合わせて断熱建具、通風建具、ロールスクリーン、可動間仕切りを自由に可変し、日射量（温熱環境）、間取り、外部からの視線などを調整することで、自ら快適な住環境を作り出せるネット・ゼロ・エネルギー・ハウスを提案。 優秀賞、特別賞ライフデザイン賞を受賞。 「月刊SmartHouse №31(2017.09)」「月刊SmartHouse №32(2017.10)」「月刊SmartHouse №36(2018.02)」「住宅建築(2018.04)」「新建築(2018.02)」「新建築住宅特集(2018.02)」「建築技術（2018.05）」「エネルギーフォーラム(2018.02)」「ビランク(2017.11)」掲載。
4.就活シェアハウス「CROWSO」外壁 のモザイクタイル画制作	共	2016年10月21日完成	株式会社ディーマン	岡﨑甚幸，山口 彩，森本順子，猪股圭佑 株式会社ディーマンから委託を受け、就活シェアハ ウスの壁面モザイクタイル画(幅4m× 高さ2.2m) の 制作を行った。「翔」と名付けた絵の中に就職活動 に励む学生たちへのメッセージを込めている。建築 学専攻修士課程1,2年生の授業「建築設計実務I・II 」で実施した。
5.Hisham’s Palace浴場の鞘堂設計	共	2016年07月	JICA(国際協力機構)，東京文化財研究所	岡﨑甚幸，山口 彩，川崎祐華，杉浦徳利 JICAから委託を受け、東京文化財研究所と共同で企 画。ヒシャム宮殿(パレスチナ・ジェリコ)の浴場 に残るモザイクタイル床を保護するための鞘堂の設 計。さらに周辺環境と調和した鞘堂のデザインを提 案し、CADと現地写真の合成による景観シミュレーシ ョンを行った。
6.尼崎の工場敷地内 庭園計画	共	2016年05月～現在	株式会社朝日エティック	岡﨑甚幸，山口 彩，森本順子，猪股圭佑 尼崎の埋め立て地にある工場敷地内の緑地に、従業員の休憩スペースとなる庭園の設計。設計，庭石選 定，現場測量，製図，施主や施工業者との調整，現 場監理，施工(植樹)を担当している。
7.旧甲子園ホテル 酒場の家具の復元	共	2016年02月完成		岡﨑甚幸，森本順子，猪股圭佑，山口 彩 甲子園会館・アートショップの家具更新ため、旧甲子園ホテル時代に使用されていた椅子とテーブルを復元した。
8.花山天文台 将来構想	共	2015年05月	京都大学大学院理学研 究科附属天文台 花山天文台	岡﨑甚幸，杉浦徳利，天畠秀秋，山口 彩，川崎祐華 京都大学 花山天文台の将来計画。花山天文台には 、本館、別館、歴史館、太陽館、新館の5つの建物が あり、本館は、建築家 大倉三郎が設計した、45cm 屈折望遠鏡が設置されたドームを持つ建物。現存す る建物はそのまま残し、展示室を併設したプラネタ リウム棟や、野外劇場、広場、店舗、カフェ、宿泊 棟などを提案した。
9.ペトラ博物館　基本計画2014	共	2014年08月		岡﨑 甚幸，天畠 秀秋，伊勢 文音，杉浦 徳利 ヨルダン王国の世界遺産であるペトラに建設する博物館の基本 計画2014。ペトラ博物館のコンサルタント計画案の規模を踏襲し、コンサルタント案の問題点を解決する改善案として、案1：展示室の床レベルが斜面に沿 う案、案2：展示室の床ベル統一案を設計した。全体の統括を担当。
10.ペトラ博物館　基本計画2013	共	2013年10月	JICA(国際協力機構)，東京文化財研究所	岡﨑 甚幸，天畠 秀秋，本郷 佑奈，山口 彩，伊勢 文音，杉浦 徳利，猪股 圭佑，森本 順子，鈴木利友 ヨ ルダン王国の世界遺産であるペトラに建設する博物館の基本計画2013。博物館の環境評価に際して、前回構想された案を2300㎡に縮小し、同時にデザイ ンをさらに検討し、前回の構想を継承する案(案1: 前回縮小案)と、それ以外のほかの３案(案2: 曲面壁2階案、案3: 平面壁平屋案、案4: 曲面壁平屋案)を設計し、それらの環境評価を行った。全体の統括を担当。
11.バーミヤーン博物館基本計画2013 (BAMIYAN MUSEUM & CULTURE C ENTER FOR PEOPLE)	共	2012年12月	UNESCO、東京文化財研究所	岡﨑甚幸，杉浦徳利，柳沢和彦，鈴木利友，天畠秀秋，宇野朋子，森本順子，山口彩ほか UNESCOから委託を受け、東京文化財研究所と共同で 企画。世界遺産バーミヤーン(アフガニスタン) にお ける考古学資料等の展示・保管・研究を行う博 物館 と地域住民に開かれたカルチャーセンターの設計。2012年に発表した案をさらに検討した。模型作成、報告書作成を担当。
12.ペトラ博物館　基本	共	2012年10月		岡﨑 甚幸，森本 順子，山口 彩，天畠 秀秋，鈴木利友

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
計画2012				ヨルダン王国の世界遺産であるペトラに建設する博 物館の基本計画2012。無機的な箱とするのではなく、ナバティア人の文化や、その後のローマ植民地都市時代の文化の香りを醸し出す場所となるように、 荒々しい赤味の砂岩の肌、そこに切り込まれた墓の幾何学的造形、ローマ的様式の柱や庇などにより構成。既存のビジターセンターに隣接する敷地に計画。 全体の統括を担当。
13.ペトラ博物館		2012年8月～現在		JICA（国際協力機構）が支援を行っている世界遺産ペトラ（ヨルダン）における博物館の設計。東京文化財研究所との共同企画。
14.バーミヤーン博物館 BAMIYAN MUSEUM & CULTURE CENTER FOR PEOPLE		2012年6月～現在		ユネスコから委託を受け、東京文化財研究所と共同で企画。世界遺産バーミヤーン（アフガニスタン）における考古学資料等の展示・保管・研究を行う博物館と地域住民に開かれたカルチャーセンターの設計。
15.阪神電車鳴尾(武庫川女子大前）駅	共	2012年3月～2018年3月	阪神電気鉄道株式会社 設計提案	岡﨑甚幸，川口衛，宇澤善一郎，猪股圭佑，森本順 子，山口 彩 駅舎の空間が基本的に備えるべき特質である記号性 を追求し、波型鋼板を用いて、単純、均質な空間を 構成した。階段や改札口、エスカレータ、エレベー ター、サインなどが他に邪魔されることなく、くっ きりと浮かび上がって見える必要があるため、屋根 を支える梁や小梁、照明や通信のための配管などが 眼に入らないように、下地材や仕上げ材が一切不要 な波型鋼板のディテールを検討した。壁と屋根面が 一体となった曲面による空間の中に、上り、下りそ れぞれのホーム階を包み込む。これにより、先端技 術の象徴でもある、高速走行する電車に良く調和し た、流動的でダイナミックな駅舎空間ができあがる。駅舎の外観及び内観デザインなどの設計提案を行っている。
16.京都府新総合資料館（仮称）公募型設計競技案　応募	共	2011年06月	京都府	計画敷地:京都市左京区下鴨半木町/規模:24,000 m2程度/プロジェクトの特徴:山門、仁王像、懸造 、磐座、北山杉、清水焼など京都に固有な風景や素 材を引用し、太陽光パネルを意匠の構成要素として積極的に活用した京都府の総合資料館
17.武庫川女子大学 トルコ文化研究センター　シルクロード建築文化展示室		2010年7月～現在		
18.武庫川女子大学　建築スタジオ・ラウンジ椅子　デザイン		2010年2月		
19.バフチェシヒル大学　日本文化研究センター・茶室（トルコ・イスタンブール）		2010年		
20.慰霊碑デザインコンペティション(千鳥ヶ淵戦没者墓苑内）		2009年10月		独立行政法人平和祈念事業特別基金主催 記念碑 / 佳作入選
21.武庫川女子大学　建築スタジオ		2007年		
22.武庫川女子大学　甲子園会館改修		2006年		
23.武庫川女子大学附属中学・高等学校　芸術館連絡渡り廊下		2005年		
24.武庫川女子大学附属中学・高等学校　芸術館改修		2005年		
25.武庫川女子大学　学術研究交流館		2005年		
26.福井県立南越養護学校		2005年		
27.武庫川女子大学　健康科学館		2004年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
28.武庫川女子大学　クリステリア３階改装		2004年		
29.京都大学桂キャンパス　建築学専攻棟		2004年		
30.真宗寺客殿および庫裏増築工事		2002年08月		
31.真宗寺本堂改修工事		1999年08月		
32.サンドーム福井		1995年07月		
33.鯖江市スポーツ交流館		1995年03月		
34.鯖江市役所新庁舎及び鯖江市・丹生消防組合庁舎		1995年03月		
35.鯖江市健康福祉センター		1995年03月		
36.福井県立大聖寺高等学校正門（福井県加賀市）		1991年		
37.福井大学教育学部附属小学校		1991年		
38.草の実保育園（福井県加賀市）		1990年		
39.中野大橋　木造高欄（福井県鯖江市）		1989年		
40.福井大学情報処理センター（福井県福井市）		1987年		
41.福井大学教育学部教育実習施設（福井県福井市）		1987年		
42.京都市高速鉄道停車場及び停留場（京都市）		1978年		
43.名護市庁舎建築設計競技案（沖縄県名護市）　応募		1978年		
44.豊岡市民会館（兵庫県豊岡市）		1972年		
45.京阪電鉄淀駅				
46.武庫川女子大学附属中学校・高等学校北特別教室棟　耐震改修				
47.武庫川女子大学学術研究推進センター（仮称）				
48.京阪電鉄淀駅高架工事				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.Technical proposal for revitalizing the Eastern Buddha Statue	共	2017年09月28日発表	国際会議「The Future of the Bamiyan Buddha statues(主催: アフガニスタン・イスラム 共和国, UNESCO, 東京藝術大学)」	岡崎甚幸，杉浦徳利，山口 彩，前田耕作，宮廻正 明，山内和也ほか バーミヤーンの東大仏再建案を日本代表案として東 京藝術大学との共同発表。東大仏より1km離れた台地 に、東大仏を1/3の大きさに縮小したモニュメントや 集会広場、博物館を計画し、技術的な提案も行なった。
６．研究費の取得状況				
1.2nd International	共	2013年03月	公益財団法人中内	2nd International Conference on Archi-Cultu ral Translations

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
Conference o n Archi-Cultural Translations Through the Silk Road の開催 に係る助成金			力コンベンション振興財団	Through the Silk Road Organizing Committee 委員長 岡﨑甚幸 本会議では、ヨーロッパから日本にまで広がるシル クロード地域諸国の、建築を中心とする生活、技術 、文化に関連する内容で、ある特定の国や地域の特 徴に関わるものや、異文化間の相互作用の特徴に関 わる論文を募集した。会場は武庫川女子大学上甲子園キャンパス、会期は2012年7月14日(土)~16日(月)で、そこでは基調講演、招待講演、一般研究発 表、大工実演、茶道体験、京都ツアー等が行われ、 会議を通じて世界7カ国64本の一般研究が発表された 。
2.精神障害者の空間図式に関する実 証的研究ー居住空間構成法及び風 景構成法を通して一	共	2007年～2008年	平成19年度科学研究費 補助金(基盤研究C)課 題番号19560650	柳沢和彦，岡崎甚幸 本研究の目的は、居住空間構成法および風景構成法 を用いて精神障害者の空間図式に関する知見を得る ことである。今回の考察では、慢性期の統合失調症 者56 事例を対象とした。そこでは、居住空間構成法 と風景構成法の空間構成の特徴の対応関係が示され 、多様な様相を示しながら廊下や囲いや風景などの 空間が解体する傾向とともに、特に「包括型」「左 右の枠を結ぶ川」という、人間が持つ本質的な空間 図式に基づく庇護的空間の可能性が示された。
3.基盤研究（Ｃ） 継続		2005年		マルチユーザ型仮想建築空間で行う対話を伴う群衆探索行動における空間と発話の関係
4.基盤研究（Ｃ） 新規		2004年		マルチユーザ型仮想建築空間で行う対話を伴う群集探索行動における空間と発話の関係
5.基盤研究（Ｃ） 継続		2003年		視覚探索・歩行行動が空間把握に果たす役割を解明するための実験的研究

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2014年3月7日	文化遺産国際協力コンソーシアム 日本認知科学会 日本芸術療法学会 日本シミュレーション&ゲーミング学会 人間工学会 日本箱庭療法学会 日本建築学会